

「東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治」 過去二年間は、冷戦終結後の激動期で、各国の対外政策がいかなる変化をとげたかに重点をおいて分析した。特に、班主任の論文について、これをたたき台に議論をすることを中心とした。したがって、1990年度では、特に東アジアにおける貿易関係のマトリックス分析と国連投票行動の分析、米中ソ三角関係の変遷についての理論について検討を行い、1991年度では、日中関係の展開とアメリカの対中政策の展開についての分析が中心となった。(田中明彦)

「比較文化研究の方法」 比較諸学の研究方法を専門の違うメンバーが討議する事により、比較諸学のネットワーク作りと比較文化アンソロジー作成をめざす。91年度の研究会7回。(岡本サエ)

「植民地体制と農業の商業化」 植民地支配期の農業の商業化の進展によって、農村構造や農民層の階層関係がいかに変容したかについては、近年、アジアの各地域で実証的分析が進むとともに、旧来の理解への批判も提起されてきている。この研究会では、アジア各地域を比較しつつ、農業商業化のあり方と影響を検討している。(柳澤 悠)

「殷周社会の総合的研究」 90年度は、「殷周時代の文物とその社会構造」(主任・松丸)と「甲骨文の総合的研究」(8月まで主任・高嶋, 9月より主任・松丸)の2班構成をとり、91年度は、両者を合体して、「殷周社会の総合的研究」(主任・松丸)1班構成とすることに改めた。各自の研究テーマに従って、研究・報告を行なっているが、共同事業として研究班を中核として集中的に作業をしているのは、『甲骨文字釋総覧』の作成である。90年度末までに、甲骨文研究開始以来の字釋を網羅的に集め、カード化して、約28,500枚のカードを完成しえた。91年度は、これの整理・編集に没頭し、刊行の準備をすすめた。92年度末に、『東文研叢刊』の1冊(A4判, 約780頁)として刊行の予定である。(松丸道雄)

「六朝隋唐思想の総合的研究」 唐代初期の釋法琳『弁証論』を担当者を決めて輪番制で読んでいる。この資料は六朝から唐初に至る三教交渉史の資料として有名なものであるが、その内容が中国古典学を踏まえ儒教・仏教・道家道教

VIII 研究活動

思想にまたがるため、個人研究者が研究することは極めて困難である。研究班は学内外の三教の専門家に協力を願い、資料を冒頭から読解しつつある。ただし、90年度は班主任が在外研究に従事したため、中断した。(蜂屋邦夫)

「東アジアにおける仏教經典の受容」 本研究班は、中国における仏教經典の翻訳と受容に関わる諸問題を検討することにより、中国の宗教文化の特質を解明することを目的としている。そのために、インド仏教研究者や中国道教研究者の協力も得て、共同研究を進めている。研究会は、各研究者の研究報告と質疑応答よりなり、その成果は本研究所紀要に逐次発表されている。(丘山 新)

「東アジア前近代官僚制の研究」 中国史、日本史、法制史を専攻する12名の班員に大学院生等十数名を加え、毎週月曜夜に唐・日本兩令及び〈名公書判清明集〉等宋末期判集の会読を続け、東アジア古代・中世の法典と当代における法の施行、適用の実態について理解を深めるに努めた。なお旧時の参加者も含め19名の寄稿した論文集『中国礼法と日本律令制』(東方書店、1992年3月)に成果の一端がみられる。(池田 温)

「華南の地域社会と地方文学」 華南を福建広東地区、江蘇浙江地区に分け、それぞれの地域社会の構造及びそれから発生する地方文学の特色について研究してきた。文学、特に民間文学(説唱、戯曲、小説)は、地域社会を背景として成立している筈であるが、従来の文学研究には、この視点が欠けていた。人類学や、歴史学の分野の専門家の協力を得て、資料を蒐め視野を拡大し、毎年3回～5回の研究会を開き、主に現地調査報告を軸に討論している。(田仲一成)

「中国1930年代の文学」 1920年代に西洋文学に学び、急激な近代化をとげるためのさまざまな模索をつづけ、20年代末よりようやく世界的な同時性を獲得しつつ中国社会の諸問題に積極的に関与していった中国文学の状況および達成を広く社会、文化、思想の流れの中に位置づけつつ明らかにする。これまでに『東洋文化』の1930年代文学特集号を3回刊行。現在週1回雑誌『現代』の講読を中心に班研究会を行っている。(丸尾常喜)

「17世紀以降東アジア公私文書の総合的研究」 東アジアにおける公私文書の史的研究：文書の解読を中心としながら、公私文書それぞれの歴史的役割と資

料的価値について検討している。(濱下武志)

「現存する中国絵画の包括的再検討」 この研究班は、東アジア美術部門に所在する中国絵画写真アーカイヴを更に充実させるために、国内外の公私中国絵画コレクションの調査撮影を実行する母胎となっている。1986年度にはヨーロッパを、87年度にはアメリカ、カナダの調査・撮影を行い、現在、研究班を中心に収集した資料の整理を行っている。(戸田禎佑)

「朝鮮における社会変動と民衆——李朝期から近代まで」 大学院生や留学生の参加も得て、李朝期から植民地期にかけての朝鮮社会の変動を究明すべく、参加者の研究発表を中心とした研究会を行っている。同時に東文研附属東洋学文献センターの事業として行われている朝鮮近代関係図書の日本国内所蔵調査に対しても、適宜協力を行っている。(宮嶋博史)

「インド亜大陸における社会変動と政治構造」 インド亜大陸において今日大きな政治問題となっているコミューナル問題など多くの対立やその背後にある社会変動について、その様相を分析するとともに、それらを歴史的に把握するために、社会経済史、歴史学、宗教研究など多様な視点から検討してきた。

(柳澤 悠)

「インド古代叙事詩の研究」 1990年度はケーララに伝わるサンスクリット演劇であるクリヤッタムにおける、叙事詩に題材をとった戯曲の研究を中心として研究会を開いた。1991年度は、『マハーバーラタ』第6巻に含まれる『バガヴァッド・ギーター』について意見を交換した。(上村勝彦)

「インド儀礼の総合的研究」 現在インドで観察される宗教儀礼を考える時少くとも四つの項目を考察する必要がある。つまり、地域差、社会的階層の差、宗教儀礼の種類、そして歴史的変遷の四つである。それら四つの視点を考慮に入れるためには古典文献学と人類学の研究者の共同作業が必要になる。本研究会はそれら研究者の意見交換を通じ、より広い視点からインドの宗教儀礼を理解することをめざす。(永ノ尾信悟)

「東南アジアの国家形成と社会経済変容」 東南アジア諸国における植民地支配の形成・解体と国民国家の成立過程を政治、経済、社会の各分野から多面的

VIII 研究活動

に、かつ相互比較を通して明らかにするために組織された研究班で、歴史的背景の考察から、いわゆる「開発独裁」体制下での諸矛盾の様相など現状分析の分野まで含む広い範囲の問題を扱おうとしている。当面、特定のテーマに収斂させることは意図せず、自由な討論と研究情報の交換の場として機能している。(加納啓良)

「ジャワ農村経済史の比較実証研究」 オランダのアムステルダム・アジア研究センターおよびインドネシアのガジャマダ大学との国際共同研究プロジェクト「現地調査と歴史データによるインドネシア農家経済の系譜的分析」の日本側参加者3名によって、同プロジェクトの作業部会として設けられた班研究であり、インドネシアでの現地調査(1990年9～10月実施)の準備と、1992年8月実施予定の総括シンポジウムへ向けて、すでに収集したデータの分析作業を行ってきた。(加納啓良)

「アジア都市比較の課題と方法」 アジアの都市の研究はこれまで非常に少なく、未開拓の研究領域である。これまでアジア諸社会の地域研究を専門的に行ってきた人々が集まって、アジアの都市を歴史と文化の視点から、複眼的にイメージを構成して、記述を試みている。すでに研究成果は『東洋文化』の都市特集として、「アジア都市の諸相」および「都市からみたアジア」としてそれぞれ公刊した。(友杉 孝)

「ジャーヒリーヤからイスラームへ」 イスラム化する以前の社会をジャーヒリーヤ時代といい、一般にそれは7世紀初頭にイスラームが勃興する以前のアラブ社会をさしている。本研究班は、アラブ社会の転換期を幅広い視野でとらえ、91年度からはじめて、長期的な研究を継続する予定でいる。91年度は、初年度としての予備的な研究を行い、次年度からの本格的な研究に備えた。

(後藤 明)

「比較イスラム制度史の研究」 前近代イスラム世界の諸制度の伝播関係と各地域・各王朝における諸制度の特質について、主として政治制度を中心として、比較史的に検討することを目的とする。(鈴木 董)

「都市社会と宗教施設」 イスラム世界の都市にはモスク、マドラサ、ザー

ウィーヤなど多様な宗教施設が存在する。本研究班の目的は、時代や地域によってかなり異なっていたと考えられるこれら宗教施設の機能や建築様式、都市社会との関わりかたなどを総合的に把握することにある。本班は1991年度に発足したばかりで、現在のところ各研究分担者が文献による研究を進め、その成果を研究会で報告するにとどまっているが、将来は現地調査も計画されている。(羽田 正)

「イスラム史料の総合的研究」 イスラム圏の史料の存在形態、内容上の特質と確度、トルコ語圏・アラビア語圏・ペルシア語圏の同一事象についての比較対照による各々の特質、といった諸問題を解明することを目的とする。あわせて、この目的のために史料講読会も行う。当面は、オスマン史料を中心とする講読会を実施中である。(鈴木 董)

「ダイバー写本コレクションの文献学的研究」 当研究所が1986～87年にわたり購入収蔵することのできたダイバー氏旧蔵写本を活用して、イスラーム文化の諸相を班員のそれぞれの立場から文献学的アプローチを主な方法として調査研究を進めることがこの班のねらいである。各メンバーが個別的に自己の研究を深めていっているのが主要な活動であるが、同時に班員に限定せず、より広い範囲の研究者をも交えた研究発表の機会を設け、意見交換の場としている。(鎌田 繁)

「アジア研究の為の諸資料の収集及びデータベースの作成」 アジア研究に必要且つ有効な情報処理方法をめぐって、研究・書誌・目録等各自の取り組み方と問題点を報告。メンバー以外に学内外から参加者多数、東洋学文献センターにとって貴重な提言が多い。91年度の研究会7回。(岡本サエ)

C 定例研究会

1990年度定例研究会

6月7日	(西アジア部門)		
報告	部門の研究概況	後藤	明
研究発表	墓廟都市と牧地都市	羽田	正
	—— 前近代イラン・イスラーム		
	世界における都市建設 ——		

トルコ・モンゴル系の遊牧民がその強力な軍事力を背景に政権を握っていた十三～十七世紀のイラン・イスラーム世界には、主として遊牧民君主の建設になる独特の都市プランがいくつも見られる。今回の発表では、このうち十四世紀初頭のガザニーヤとスルターニーヤ、十五世紀後半のナスリーヤを取り上げ、その共通する特徴を検討した。主な結論は次の通りである。

1. これらの都市は全て水、草が豊富で庭園（バグ）が建設しやすい地にあり、遊牧民集団が集まりやすい条件が整っていた。
2. 交易の場所としても適当であった。
3. 建設者の墓廟とそれに付随した多くの宗教・慈善建造物がこれらの小都市の中心にあり、建設者が寄進したワクフによって維持、運営されていた。
4. ナスリーヤに至ってはじめて広場（メイダーン）が都市生活において重要な役割を持つようになり、それは次代のサファヴィー朝シャー・アッバースによるイスファハーンの都市建設へと引き継がれていった。
5. 墓廟を中心にしたこのような小都市は、十六世紀以後のイランのシーア化によって姿を消していった。

討 論 関 本 照 夫
司 会 鈴 木 董

7月12日 (汎アジア部門)

報告 部門の研究概況

関本照夫

研究発表 国際システムは必ず世界帝国になるか？

田中明彦

—— 国際システムのコンピュータ・シミュレーション ——

国際関係を構成する国家は、しばしば自己保存と自己利益の増大のみに関心を持ち、その目的達成のためには戦争も厭わない存在であるといわれる。このような「ホッブズの」あるいは「現実主義的」な前提に立つとき、複数国家からなる国際システムにおいて平和は、いかなる条件のもとで、どの程度、可能であろうか。このような国家からなるシステムは最終的には、征服による世界帝国になってしまうのであろうか。このような問題は、国際政治学において、なごらく追求されてきた課題であり、今回の報告は、ブレマー・ミハルカ型のコンピュータ・シミュレーションによるこの課題へのアプローチの実際を紹介したものである。今回開発したモデルによれば、ホッブズの的行動様式を持つ国家であっても、慎重かつ一貫した国家からなるシステムにおいては、勢力均衡による平和がかなり継続することがわかった。

討論においては、国家の分離独立および領土の縮小をもたらすような前提をモデルに導入する必要が指摘されたほか、シミュレーションの意義、他の分野への応用可能性などについて活発な議論がなされた。

討論 猪口 孝
司会 原 洋之介

9月27日 (東アジア部門 I)

報告 部門の研究概況

宮 嶋 博 史

研究発表 宋代刑罰の諸問題

川 村 康

—— 特に折杖法と重杖処死について ——

宋代の刑罰のもっとも特異な特徴は、正刑の法定刑と執行刑の乖離という点にある。宋王朝は基本法典として唐律を継承し、唐律的五刑を刑事手続の基準

VIII 研究活動

としたため、原則として唐律的五刑を法定刑として制定法上に規定せざるをえなかったが、現実に執行される刑罰はこれと異なる宋代的刑罰であった。この乖離を解決するのが、流以下の四刑については折杖法であり、これによって流は背杖と配役、徒は背杖、杖・笞は臀杖に読み替えて執行されていた。従来、折杖法は建隆4年に制定されたものが宋一代を通じて定制であったとされてきたが、現実には大観2年と政和8年の二度にわたって改正され、南宋においては政和8年法が適用されていたことを論証した。一方、死刑は従来、凌遲処死・斬・絞の三等であるとされ、重杖処死の存在は等閑視されてきた。この考えは法定刑については原則として妥当するが、現実に執行されたのは凌遲処死・斬・重杖処死の三等であり、斬の一部と絞を重杖処死に読み替えて執行することを規定した唐建中3年法が宋代においても適用されていたことも確認した。

討 論 斯 波 義 信
司 会 松 丸 道 雄

10月18日 (東アジア部門II)

報 告 部門の研究概況

丸 尾 常 喜

研究発表 漢訳仏典と中国思想

丘 山 新

後漢末以来、多数の仏教経典が中国に齎され、漢訳されたが、そのいずれもが受容されたわけではない。いったい、いかなる経典が、どの時代に、どのような関心から受容されたのであろうか。つまり、漢訳仏典の受容の特徴から、中国時代思潮の一端を探りうるであろう。

今回とりあげる『大阿彌陀経』は、阿彌陀仏の救済と極楽浄土の思想を説く、所謂「無量寿経」系の経典で、二世紀から三世紀にかけて伝訳されたものであり、中国における救済思想の展開という視点からも重要な経典である。

ところで、この『大阿彌陀経』には〈三毒五悪段〉と呼ばれる、訳者によって付加された部分があり、全体の約三割をしめている。そこで扱われている主要なテーマは、輪廻・因果応報の問題であることが知られ、この問題は、訳出

された当時の中国人の主要な関心事の一つであったことが推測される。

この問題をめぐって、同時代に出現した道教経典『太平経』と比較・検討することにより、その思想史的な意義をあきらかにすることができよう。

討 論 岡 本 サ エ
司 会 丸 尾 常 喜

11月8日 (南アジア部門)

報 告 部門の研究概況 柳 澤 悠

研究発表 ヴァーストゥプルシャマンガラと

ヒンドゥー寺院の平面設計 小 倉 泰

—— 儀礼と建築の接点 ——

「ヴァーストゥシャーストラ」とよばれるサンスクリット諸文献のなかから、ヒンドゥー寺院の平面設計に関する記述を抽出して整理した上で、初期チョーラ様式として分類される南インドの諸寺院の平面設計と対照し、寺院建築の理論と実際の設計の関係を論じた。ヴァーストゥシャーストラの規定するヒンドゥー寺院の設計法は、いわゆるグリッド法であり、ガルバグリハ（神像を安置する聖域）の位置および面積は、柱端で測量される基準線に基づいた本殿の幅から、特定の比例によって決定される。初期チョーラ様式の諸寺院の平面図を分析すると、これらの寺院の設計が、ほとんど正確に上記の方法に従っていることが明らかになる。実施設計において用いられるこのグリッドは、建築工事に先立つ地鎮祭儀礼の中で描かれる、ヴァーストゥプルシャマンガラという儀礼的図形と対応しており、寺院建築という行為が、建築作業であると同時に、神話の再現という儀礼としても把握できることが指摘できる。

討論では、イスラム世界の宗教建築において、コスモロジーに類する観念が全く見いだされないことと、ヒンドゥー建築における象徴の豊饒性との対照が指摘された。

討 論 羽 田 正
司 会 上 村 勝 彦

1990年度退官記念最終研究発表会

3月7日

斯波義信教授研究略歴紹介

濱下武志

研究報告 江南農業にみる生産の推移

斯波義信

——中世革命とかかわらせて——

先年提出の研究報告『宋代江南経済史の研究』を敷衍した展望を試み、教正を得たい。

(1) 近30余年の研究で、人口・耕地・生産性の指標相関でみて、18世紀から中国全土で耕地供給を上廻る人口急増がある一方、先進の江南で清代に人口と耕地が下降したと推断され、その説明に全土で単位面積当収量は漸増したが、江南では16世紀から資本集約と農業の商業化が大いに進んだとされている。

(2) 9～13世紀の江南のコア地帯の人口密度は明初江南の平均180人/km²の水準に向う動態がみられ、直接的な単位面積当収量では、明の斛で量って宋初1.0石、宋末1.5～2.0石、明初2.0～3.0石の伸びがあり、1農家経営面積では、唐末30畝、南宋20畝、明清5～10畝と漸減し、この間1畝当労働集約水準は9～10人と大きく変らない。つまり大開墾期は明前半で終り、宋の江南は品種や農具の改良、水利建設で農業が安定し農業の商業化に向う過渡にあった。研究史上第2ラウンドに入った宋代の経済史では各種指標の定位と総合判断が求められている。

3月7日

板垣雄三教授研究略歴紹介

鈴木董

研究報告 地域研究の方法と課題

板垣雄三

——一研究者の歩みの中からの提言——

1. 自己反省を通じての研究史の試み
2. 「地域」把握への視点
3. 中東研究の現状と問題点

4. 地域研究の全面的展開の意義

本報告の目標は、一個の研究者の歩みの点検と反省の中から、日本の中東研究の全般的課題状況を展望しようとし、また地域研究の一般的課題を再検討する中から、比較との総合のための協業に向けての個々の専門的研究の可能性について省察しようとするに、おかれている。いわば収縮と拡張の二つの局面において、またその間の往復運動の中で、地域研究のあり方への提案を試みようとするものである。1.では、1950年代以降の研究活動を回顧し、2.では、組み替えにもとづく地域論の可能性を述べ、3.では、日本における中東研究の現況を吟味し、4.では、諸地域をつらねた地域研究の総合と組織化とを目指す提言を行う。

1991年度定例研究会

6月20日 (汎アジア部門)

報 告 部門の研究概況

岡 本 サ エ

研究発表 「歴史社会」における人類学的調査の

可能性と問題点

未 成 道 男

—— 客家葬送儀礼をめぐる ——

人類学が中国のような「歴史社会」を研究対象とした場合どのような問題が有り得るのかを抽象的に考察するのではなく、「做斎」という台湾の劇的要素を含む供養儀礼のビデオを通じて考えて見た。画面には、親族関係者の役割に明確に見られるような行動や象徴の分化、泣く行為の多面性など、文献資料では浮かび上がって来ない状況が含まれ、人類学的行動観察の有効性が示唆された。しかし、本報告においても、疏文や科儀表などの文献資料が利用されているように、儀礼の意味づけには文字資料が極めて重要である。

討論では、做斎の内容に即したコメントのほか、人類学は、記録ではわからない事の多い郷礼や俗礼や、従来の文学では欠けていたエスニックグループごとの違いといった点に強いが、歴史的な変化や支配被支配関係といった視点に

VIII 研究活動

弱いことが指摘された。つまり、「歴史社会」の分析には、人類学と他分野との共同研究は不可欠なもので、境界領域でかなり踏み込んだ相互乗り入れを行うことによって興味有る成果を挙げるのが期待される。

討 論 田 仲 一 成
司 会 原 洋之介

7月11日 (東アジア部門I)

報 告 部門の研究概況 松 丸 道 雄

研究発表 中国の国家祭祀に関する一考察 小 島 毅

—— 地方の祠廟をめぐって ——

発表者の近年の研究課題は、帝政中国における「礼」が政治的・社会的統合に果たした役割の解明にある。その一環として、朝廷が定めた吉礼（神々への祭祀）の制度が、地方では現実にどのように運用されていたかという問題が存在する。ここでは、祭の対象となる神が、牌の形をとるか、像の形をとるかという相違が、正統儒教の立場からどのように語られてきたかを考察した。朱子学では、原理的に、城隍神や孔子は神牌で祭られるべき神とされた。明朝はそれに沿って制度改定を実施し、清朝もこれを踏襲した。しかし、実際には像を置いたままの廟が多く、これを正当化する理論も工夫された。発表では、あるべき姿と現実の姿の食い違いは体制の中に折り込み済みで、そこには複雑な力学が作用していたのであると分析した。討論では、牌と像の二項対立は、あくまで儒教の側からのもので、一般の人々がそれを重視していたかどうかは別の問題であるとの指摘がなされた。また、関帝その他の神の位置づけや、儒教の神像批判がどうして生まれてきたのかといった諸点をめぐって、質疑応答が行われた。

討 論 末 成 道 男
司 会 松 丸 道 雄

9月12日 (東アジア部門II)

報 告 部門の研究概況
研究発表 人・鬼の関係

丘 山 新
丸 尾 常 喜

—— 晩清紹興覆盆橋周氏の場合 ——

「鬼」は「人」の死後の靈魂であり、死後の祭祀が絶えたり、不遇な死をとげた死者の靈魂は、「孤魂野鬼」として徘徊し、「人」の世界に災をもたらすというのが、伝統中国の一般的な観念であるが、儒教は伝統的に死後の靈魂を何らかの実体として想定するのに禁欲的であった。早く荀子は葬礼や祖先祭祀が、庶民にとっては「鬼事」であっても、君子にとっては「人事」であることを強調している。しかし両者の区別は容易にあいまいとなりえた。魯迅の生地紹興では、祖霊は「神」に近い存在であるが、「鬼」には変りなく、「野鬼」と区別しつつ、「正鬼」と呼ばれていた。

この報告は、魯迅の実家紹興覆盆橋周氏に焦点をあて、年中行事や忌日に伴う祀祭・家祭・墓祭・誕生・婚姻・病気・死亡のさいの行事や観念の素描を試み、周家における「人」・「鬼」の関係を理解しようとしたものである。それをひと口でいえば、彼らの日常生活は祖霊＝「正鬼」との親密な交渉において営まれるとともに、「孤魂野鬼」にたいする敏感な警戒につらぬかれている。また儒礼を基本としつつ、葬礼は僧・道によって行われ、婚姻、死亡のときは「土地廟」にも詣るなど民間信仰の浸透にも見て取ることができる。

討 論 蜂 屋 邦 夫
司 会 丘 山 新

10月17日 (南アジア部門)

報 告 部門の研究概況

柳 澤 悠

研究発表 グリフヤスートラ文献における
儀礼の変容

永ノ尾 信 悟

現在のインドのヒンドゥー社会でさまざまな儀礼を見ることができる。結婚式、葬式、祖霊祭、朝夕の礼拝、儀礼カレンダーの特定の日に行われる神への礼拝や祭礼、寺院で行われるさまざまな儀礼などである。これらのうちいくつ

VIII 研究活動

かのものはグリフヤストラ文献に最初の記述が見られ、他のものに関しては萌芽的記述があり、いくつかは全く知られていないものもある。グリフヤストラが記述する儀礼の他に、ヴェーダ時代にはシュラウタストラが記述する一群の祭式があった。それらはヒンドゥー儀礼と全く異っている。従って現代インドの儀礼を文献史的に研究する場合、グリフヤストラが重要となる。

一八種類のグリフヤストラが現存する。そこにおいて基本的には人生儀礼、年中儀礼、その他の儀礼と三種類の儀礼が扱われていた。それらの三つの基本的構成要素の記述の中に、ヒンドゥー的な儀礼につながるような変容の方向性をいくつか読み取ることができる。グリフヤストラという一つの文献群の中に、ヴェーダの祭式からヒンドゥーの儀礼への移行の最初期の動きを見てとることができる。

討 論 鎌 田 繁
司 会 上 村 勝 彦

12月12日 (西アジア部門)

報 告 部門の研究概況

鈴 木 董

研究発表 考古学情報の偏り

松 谷 敏 雄

—— 平和と発掘調査 ——

イラン・イラク戦争が長引くにつれ、両国で発掘調査に従事してきた多くの外国の調査隊は、フィールドをシリアに切り換えた。私たちの調査隊もそのうちのひとつである。今日、シリアでは数多くの調査が行われている。

かようにイランやイラクでの発掘調査がほとんど行われなくなり、シリア領からの情報が増加しはじめた。こうなってくると、今までメソポタミア先史学に関する知識があまりにもイラクに偏っていた状況が明らかになってきた。そこで、イラクからの情報がかつては優勢であった理由について考えた。

イラクでは、1936年に「古物法」を制定し、外国からの調査隊を積極的に受け入れる態勢をととのえた。外国隊のうまみは、発掘品の半数を合法的に受領できるというものであった。博物館などから資金を調達した場合に、出土品が

格好の土産となったからである。これによりイラクの先史学は大きく前進した。

われわれ研究者がもっている先史時代についての情報は「九牛の一毛」にすぎない。将来の先史学は大きな変貌をとげるであろう。(松谷)

考古学情報は発掘地に平和があるかないかで非常な偏りを受ける。しかも発掘地はさまざまな幸運で選ばれたもので九牛の一毛にすぎないという観察も実感をもってつたわる。それでは現在の国際政治を扱う私自身の研究の状況はどうなのか。それを考えることによって考古学情報の偏りが実は特有なものではなく、国際関係についてもまたにたような偏りがあることを明らかにしようとした。

考古学にかぎらず国際政治学でも情報の偏りは深刻な問題である。その性格は異なるが、その改善の努力はどちらにおいても難しい。(猪口)

討 論 猪 口 孝
司 会 後 藤 明

1991年度退官記念最終研究発表会

3月5日

山田三郎教授研究略歴紹介

原 洋之介

研究報告 アジア農業発展の基本的性格と地域性

山 田 三 郎

先ず、世界におけるアジア農業の特徴について、アジアにおける食料事情の大幅改善、世界農業生産に占めるアジアのシェアの拡大、アジア農業の生産物構成の特徴、アジアにおける過剰な農業労働力と極端に狭小な土地資源、アジアの農業発展パターンの特徴、最大の技術的要因「緑の革命」、アジア農業の低位労働生産性、アジア農業発展の制度的要因などについて明示した。

その上で、アジア諸国間に存在する農業の地域性を、土地／労働比と土地生産性の地域差：西アジア vs その他アジア、労働生産性の地域差、土地生産性格差と ha 当り経常財投入の差異、労働生産性格差と労働当り諸投入の差異、

VIII 研究活動

農業発展と付加価値率の低下趨勢，作物構成の地域差，経済発展水準・労働生産性と農産物構成，農産物純輸出入の国別差異等について明らかにした。

そして，主成分分析による農業地域性の検出を行って，アジア諸国の農業類型を提示した後，最後に，農業開発戦略の展望について，「緑の革命」の教訓，市場機能の強化，政治的環境の改善，資源開発と自然環境の保全，適切な構造調整，国際協力の必要性等を論じた。

3月5日

池田 温教授研究略歴紹介

松丸 道雄

研究報告 前近代東亜における史書の伝統

池田 温

中国では約3000年前の王の言動を録す「尚書」や魯の国の年代記「春秋」以来，史官の記録に由来する一貫した伝統の下で，世界でも最も豊富といえる夥しい史書を産出した。

前漢の司馬遷「史記」が本紀・表・書・世家・列伝の紀伝体を創め，後漢の班固「漢書」以来前王朝一代の歴史を紀伝体で撰述する方式が定まり，明朝時代に至るまで踏襲され，計廿四，五種の正史として尊重されている。唐代には修史機構の整備から編纂体例も詳密に向い，起居注・時政記・日曆に基き皇帝一代毎に実録が作られ，数代を経て紀伝体の国史が編纂される慣行が確立した。

北宋の印刷時代に入ると史書も量的質的共に飛躍的に進展を示し，特に編年体通史の名著司馬光「資治通鑑」が出ると，正史以上に普及して史書の主流となり，紀事本末体を派生した。一方8世紀の杜佑「通典」から鄭樵「通志」を経て13世紀の馬端臨「文献通考」に及ぶ政書の発達は，資料批判や史実考証の深まり，金石学等補助学の進歩と相まって史書の質を高め，清朝考証学の諸成果も伝統史学なりの史書の成熟をもたらした。

時代とともに主権者の権威を飾る役割を担わされながら，理念として直筆が尚とばれ，志類によって社会の進歩を描き出し，列伝を通じ人間の本性を洞察する努力を積重ね，支配者の不正に対する抵抗精神を保持し続けた。

中国の史書は、朝鮮・日本・ヴェトナムの歴史書にも圧倒的影響を及ぼしている。

近年帛書・簡牘・文書等新出土資料や近世档案等一次史料の研究が進み、伝存史籍の実態にも解剖のメスが入り、その真価も再評価されつつある。

東洋文化研究所創立50周年記念式典記念講演

1991年11月29日 東京大学山上会館

チベット社会の調査からみた中国とインド

中根千枝

チベット族はチベット高原を中心に中国領、インド領にまたがる広範な地域に分布しているが、そのいずこにおいても居住地が海拔2,500m～5,000m地帯という特殊な自然環境にもよるものと思われるが、その生活様式、価値観をはじめ基本的な共通性をもっている。このため、チベット社会の調査からみると、隣接する中国人（漢人）やインド人（ヒンドゥ）そしてその両社会の特色が比較できて興味深い。

中国もインドも同じように、その西北部の辺境（チベット族地帯への地域）にはイスラム教徒の地域があり、インドの東北部、中国の南西部には少数民族地帯があり、チベット族との間には中間地帯が形成されている。しかし、チベット族と漢族・ヒンドゥとの接触、交流（対決も含めて）は昔から辺境において最も関心のよせられた問題である。本講演ではチベット側からみた漢人社会・ヒンドゥ社会のあり様を考察した。以下、その一部を紹介しておく。

漢人とヒンドゥの違いが極端にあらわれるのは、チベット人に対する受容のあり方である。漢人とチベット人との通婚はずい分行われてきたが、ヒンドゥの場合皆無に近い。しかし、興味あることは、チベット人に対する社会的受容となると、ヒンドゥ社会の方がはるかに許容性がある。漢人は昔からさまざまな理由でチベット族地帯へ移住する者がみられたが、ヒンドゥにはそうした例が殆んどなく、反対にチベット人がインドに移住し大した抵抗なく生活するという具合である。こうしたことにも、カースト内婚と同時に異質の集団を包含

VIII 研究活動

するメカニズムをもつヒンドゥ・カースト社会と、常に辺境への進出が行われてきた漢人社会の特色が端的にうかがわれるのである。

東洋文化研究所創立50周年記念特別講演会

「アジア研究の伝統と今日的課題」

1991年11月30日 総合図書館3階大会議室

アジア研究の日本的功罪

猪口孝

私自身がこの二、三年どのようにアジアと係わっていたかを出発点とした。ニューデリー、北京、ジョグジャカルタでの講義や会議を材料にアジア人がどのような眼で日本人をみているらしいかにまず触れた。それを踏まえて、アジアで日本が果たせるかもしれない役割について考えてみた。

それを語るためには、冷戦後、アジアで起きている大きな構造変動について語らなければならない。アジアで現在進展していることは世界で進展している大きな構造変動の一部である。三個の大きな特徴をあげよう。第一はアメリカの軍事的優位とその経済的技術的基盤の脆弱化であり、第二は経済の地球化と地域化であり、第三は国内体制の自由化と不安定化である。

第一の特徴のアジア太平洋での発現形態として重要なのは軍事的優位の溶解と経済的技術的脆弱化の進展が太平洋アジアの着実な経済技術発展によってさらに加速されるだろうことである。第二の特徴のアジア太平洋での発現形態として重要なのはアジア太平洋経済にとって地球化が絶対に必要とされながら、ほかの先進地域でしづかに門戸を占めつつあるらしいこと、そしてアジア太平洋自体は地域的制度化には積極的になれないことである。第三の特徴のアジア太平洋での発現形態として重要なのは経済発展が急速なために、アジア太平洋諸国の経済社会政治変動はひとつ間違えば大きな不安定化に繋がりがやすいことである。それに民主化への内外の要求の増大が加わるわけであるから問題はさらに複雑になる。

日本の役割は平和的な地域安全保障措置への協調的なイニシアティブ、世界

自由貿易体制を擁護し、しかもアジア太平洋経済を大きく成長させる手助け、そしてアジア太平洋諸国の自由化と民主化を不安定化させずに行えるような手助けにまとめることができよう。

バガヴァッド・ギーターの主題

上村勝彦

ヒンドゥ教の聖典『バガヴァッド・ギーター』は「最高のヨーガ」について説く書である。『ギーター』において、ヨーガは「平等の境地」であると定義されている（二・四八）。それはあらゆるものを平等（同一）に見る境地であり、絶対者ブラフマンと合一した解説の境地である。このヨーガという絶対の境地に達するためには、行為者はすべての行為を絶対者（＝最高神クリシュナ）に対する捧げものとして行わなければならない。それは「祭祀のための行為」と呼ばれる。すべての行為を絶対者に対する祭祀として行うことを意味する。これが『ギーター』の説くところのサンニヤーサ（放擲）である。行為者はすべての行為の結果（果報）を絶対者（最高神）のうちに放擲して、結果を顧慮することなく、自己に定められた義務を遂行すべきである。一般に「サンニヤーサ」という語は、行為を放棄して社会生活から離れることを指すが、『ギーター』はそれに独自の意味を与える。社会人は自己の義務を果たしつつ、サンニヤーサによって、ヨーガという窮極の境地に達することができるというのが『ギーター』の主題である。

地域研究と歴史研究——中東研究の場合——

後藤 明

私は歴史研究者であると自覚しているが、歴史研究者としての私には二つの面がある。ひとつは、預言者ムハンマド時代のアラブ社会という、時間的にも空間的にも限定された対象を研究する、細部や瑣事にこだわる実証主義的な研究者という面である。今、私が問題にしているのは、私が依拠している史料がはたしてどれだけ信頼できるのか、という史料批判の問題で、その解答の一部を発表しつつある。もう一つの面は、全地球的規模での人類史の把握を試みている歴史家という面である。その試みのためには、史料を丹念によむ作業を繰

VIII 研究活動

り返すことにはそれほどの意味はなく、乱読と耳学問に頼らざるを得ない。そして、試みは完成することはなく、私にとってのその試みとは、大まかな見通しをつけては、それを修正していくことの繰り返しである。

歴史研究者としての第一の面と第二の面の接点は、第一の面での研究対象を太古にさかのぼる中東の歴史のなかに位置付け、さらに中東の歴史を全人類史のなかに位置付けることにほかならない。そのような作業のなかから、例えば、現代の中東で「自由」を語る時、それは近代ヨーロッパの文脈で語るか、イスラームの文脈で語るのかという、「自由」という概念の本質に迫る議論が可能となる。

私は今、研究所の仕事として、また大学院総合文化研究科地域文化研究専攻での授業で、また大学の外でも、地域研究にかかわっている。私にとって、歴史研究と地域研究の接点とは以下の考えである。例えば、法学の分野では、いわゆる英米法にしても大陸法にしても、それは中東には適合しない。また経済学を例にとれば、中世封建制から資本制へという発展理論や、ヨーロッパ中心の世界市場論などは中東には適合しない。世界のそれぞれの地域の論理は地域の歴史の中で形成されてきたものなので、それがそれぞれの地域の現状と将来を規定している。私は、地域研究者は「歴史家」でなければいけない、とはいわない。しかし、地域研究は優れて共同作業であるし、そこに歴史研究者が加わることは必然であると信じている。そこに、地域研究と歴史研究との接点があるのではないかと考えるのである。

D 内外学術研究・調査

1. 特別事業費による海外現地研究

1990年度

加納啓良 (1990.8.12~8.26) シンガポール, マレーシア, オランダ, ベルギー。シンガポールとマレーシアでは, マラッカ海峡地域の経済と国際労働移動の歴史と現状についての資料収集を行った。オランダではジャワの経済史に関する資料収集と研究交流を行い, ベルギーではレーヴェンで行われた国際経済史学会大会に参加して, インドネシアの農村史についての研究報告を行った。

田仲一成 (1991.2.20~3.28) 福建, 広東の祭祀演劇の調査を行った。香港から福建省福州, 莆田, 泉州に入り, 再び香港に戻り, さらにシンガポール, 台湾をめぐり, 福建系住民, 広東系住民が現在保持している郷村祭祀演劇の実態を調査した。従来, 未調査であった閩南系の宗教儀礼にも調査の手をのばし, 新たな知見を得た。

1991年度

松丸道雄 (1991.10.21~12.3) 中国新出の殷周考古資料調査。中国社会科学院考古研究所の邀請, 安排により, 北京, 太原, 侯馬, 岐山, 鳳翔, 宝鷄, 広漢, 成都, 南京, 鎮江, 上海, 杭州, 南昌, 長沙, 広州, 香港において, 新石器時代~春秋戦国期の新出考古資料の極めて多数を披見, 資料蒐集を行い, 多大の成果を得た。

鎌田 繁 (1991.11.28~12.31) 主にイランでイスラーム神秘思想に関する文献資料の調査収集活動を行った。テヘラン大学および議会図書館の所蔵す

VIII 研究活動

るシーア派神秘思想家の著作の写本のいくつかを調査し、その主要なものをマイクロフィルムの形で収集した。また近年のシーア派の活動を示す種々の文献の収集、イラン側研究者との意見交換を行った。なおトルコにおいても予備的な文献資料の調査を行った。

2. 文部省科学研究費及びその他の経費による研究・調査

○文部省科学研究費補助金；総合研究(A)

末成道男 「中国に関する文化人類学・民俗学・歴史学の共同研究のための方法論の再検討および文献解題の作成」

研究代表者：末成道男（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：王崧興（中部大学），小熊誠（沖縄国際大学），西澤治彦（武蔵大学），瀬川昌久（東北大学），堀江俊一（園田学園女子短大），植野弘子（茨城大学），三尾裕子（東京外国語大学），清水純（日本大学），吉原和男（近畿大学），川崎有三（帝京大学），桐本東太（慶応義塾大学），谷野典之（立教大学），鈴木正崇（慶応義塾大学），武内房司（学習院大学），曾士才（法政大学），栗原悟（相模女子大学），長谷川清（岐阜教育大学），横山廣子（東洋英和女学院大学）

1990年度，91年度にわたり，「必読文献解題」（330件），「文献目録解題」（102件），「特別文献目録解題」（92件）を作成しこれに「研究動向」，「基本概念と民俗用語に関するメモ」を付した報告書『中国に関する文化人類学的研究のための文献解題』を刊行した。これまで散在していた各分野の中国関係文献解題を人類学の立場から統一的に把握するもので，研究の進展状況を具体的に把握するための工具書として役立つであろう。

1991年度：270万円，1992年度：250万円

柳澤 悠 「植民地期インドにおける農村工業等の展開と農村構造の変容：日本の経験を背景に」

研究代表者：柳澤悠（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：清川雪彦（一

橋大学), 谷口晋吉 (一橋大学), 中里成章 (神戸大学), 水島司 (東京外国語大学), 大野昭彦 (成蹊大学), 脇村孝平 (大阪市立大学), 粟屋利江 (東京大学)

この研究は, 農村工業やその他の農業外の諸経済活動の影響によって, 植民地支配期のインド農村社会がいかに変容したかを明らかにすることにある。取り上げる農村工業は, 製糖業, 皮革業, 精米業, さらに家畜飼育など農業に関連した諸活動・商業, 海外出稼ぎなどを含めて, これらの諸活動の発展は, 植民地支配期のインド農村構造の変容に重要な影響を及ぼしていた。対応する日本社会の変容と比較・検討して, 新たな視点を追求したい。

1991年度: 300万円

○文部省科学研究費補助金; 重点領域研究

板垣雄三 「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究 (総括班)」
研究代表者: 板垣雄三 (東京大学東洋文化研究所), 研究分担者: 後藤明 (東京大学東洋文化研究所), 川床睦夫 (中近東文化センター), 清水展 (九州大学), 今永清二 (広島大学), 応地利明 (京都大学), 湯川武 (慶応義塾大学), 佐藤次高 (東京大学), 斯波義信 (東京大学東洋文化研究所), 山形孝夫 (宮城学院女子大学), 黒田壽郎 (国際大学), 池田修 (大阪外国語大学), 飯森嘉助 (拓殖大学), 中村光男 (千葉大学), 西川潤 (早稲田大学), 米山俊直 (京都大学), 永田雄三 (東京外国語大学), 木島安史 (熊本大学), 古賀正則 (一橋大学), 嶋田襄平 (中央大学)

23班からなる本重点領域研究各班間の連絡, 調整を行うとともに, 次のような事業を実施した。1) 中近東文化センターとの共催で, 第二回「イスラームの都市性」国際会議を開催した。2) 第三回全体集会を開催し, その報告書 (『イスラームの都市性』 (第三書館)) を刊行した。3) 公開講演会を大阪, 仙台, 広島, 福岡で開催した。4) 大学院生を対象とした一週間のサマースクールを開催した。5) 研究成果の公表のため, 「マディーニーヤ」 「研究会報告シリーズ」 「研究報告シリーズ」 を約50点刊行した。

VIII 研究活動

1990年度：2430万円 1991年度：290万円（この年度に限り、研究代表者は後藤明）

斯波義信 「都市の外部ネットワーク」

研究代表者：斯波義信（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：飯塚キヨ，佐藤圭四郎（龍谷大学），長島弘（長崎県立国際経済大学），濱下武志（東京大学東洋文化研究所），家島彦一（東京外国語大学）

「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究」（研究代表者：板垣雄三東京大学東洋文化研究所教授）に所属する一班として，都市の外部ネットワークに関わる問題を中心に研究を行った。

1990年度：480万円

羽田 正 「前近代東方イスラーム世界の都市とその社会」

研究代表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：山内昌之（東京大学），高橋和夫（放送大学），小牧昌平（上智大学）

「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究」（研究代表者：板垣雄三東京大学東洋文化研究所教授）に所属する一班として，本班単独で，また他班と共同で研究会を開催し，イランを中心とする前近代東方イスラーム世界の都市の特徴を，他地域の都市と比較しながら，形態，社会組織の両面から明らかにしようと試みた。

1990年度：180万円

○文部省科学研究費補助金：国際学術研究

a. 本研究所スタッフが研究代表者であるもの

田仲一成 「東アジアにおける農村祭祀演劇の比較研究」

研究代表者：田仲一成（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：丸尾常喜（東京大学東洋文化研究所），大木康（東京大学），諏訪春雄（学習院大学），顧朴光（貴州民族学院），潘朝霖（貴州民族学院），黄強（上海社会科学院），

姜彬（上海社会科学院），陳勤建（華東師範大学），彭飛（上海大学）

中国大陸の目連戯，儼戯を調査し，日本の仮面劇と比較することを目的とし，江蘇，安徽，江西，貴州各地の農村を調査した。

1989～91年度：1300万円

戸田禎佑 「ヨーロッパ・アメリカ所在中国絵画の調査」

研究代表者：戸田禎佑（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：小川裕充（東京大学東洋文化研究所），西上実（京都国立博物館），井手誠之輔（東京国立文化財研究所），林秀薇（東京大学東洋文化研究所），鈴木昭夫（駒沢大学），救仁郷秀明（東京国立博物館），藤田伸也（大和文華館），板倉聖哲（東京大学），長岡由美子（東京国立博物館），嶋崎淳（東京大学大学院）

本研究は，十余年前に刊行された「中国絵画総合図録」（全五巻）の増補改訂版出版のための基礎的な写真資料の収集のために行われた。1991年度はヨーロッパ各地のコレクション18箇所，474件の作品について，1992年度には，アメリカ，カナダで1191件の作品について調査撮影を行った。科学研究費の給付額が絶対的に不足したので，科学研究費はすべて旅費に充当し，その他の費用は三菱財団，及び個人負担によった。

1990～91年度：2000万円

加納啓良 「現地調査と歴史データによるインドネシア農家経済の系譜的分析」

研究代表者：加納啓良（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：田中学（東京大学），水野広祐（アジア経済研究所），Mubyarto（ガジャマダ大学），Djoko Suryo（ガジャマダ大学），Frans Husken（アムステルダム・アジア研究センター），Peter Boomgaard（アムステルダム・アジア研究センター）

オランダ植民地支配下の20世紀初頭に中部ジャワ北海岸の Cholma 地方で，当時の蘭印糖業企業シンジケートが実施した24か村約3000世帯の農家経済調査の報告書のデータをベースラインとして，同じ地方での追跡調査とオランダ，イ

VIII 研究活動

インドネシア両国でのアーカイブにおける史料調査とによって、過去約100年間に同地方で生じた社会、経済、政治構造の変化を総合的に解明しようとする国際共同研究で、すでに2回の現地調査を行った。

1990年度：430万円，1991年度：350万円

羽田 正 「イスラム世界の都市空間に関する歴史学的研究——庭園を中心に」

研究代表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：横山正（東京大学），小牧昌平（上智大学），小倉泰（東京大学東洋文化研究所）

トルコ（イスタンブール，ブルサ），イラン（テヘラン，イスファハーン，シーラーズ，ヤズド，カーシャーン），北インド（デリー，アーグラ）で，各地域の庭園の基本的様式，歴史的発展のあとなどを調査するとともに，都市計画の中で庭園がどのように位置づけられ，扱われているかも把握しようと試みた。この調査と並行して，都市空間において宗教施設が有した意味，位置などについての聞き取り調査も行った。

1990年度：300万円

「イスラム世界における都市空間に関する比較研究——庭園とモスクを軸にして」

研究代表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：横山正（東京大学），藤井恵介（東京大学），小牧昌平（上智大学），林佳世子（東京大学東洋文化研究所），小倉泰（東京大学東洋文化研究所）

エジプト（カイロ），モロッコ（ラバト，サレ，プージャード，マラケシュ，フェス，メクネス，タンジェ），イタリア（パレルモ，ヴェネチア，ローマ），スペイン（セヴィリヤ，グラナダ，コルドバ，トレド）を訪れ，イランなど東方イスラム世界と比較する形で，宗教建築物，庭園に関して総合的な調査を行った。また，特にモロッコでは，現地の研究者との間で「イスラム都市」に関するコロークを開催し，相互の学術交流の実をあげることもできた。

1991年度：700万円

後藤 明 「欧米諸国における地域研究の実態調査」

研究代表者：後藤明（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：板垣雄三（東京経済大学），佐々木高明（国立民族学博物館），松原正毅（国立民族学博物館）

中東地域研究に焦点を合わせつつ，全般的な地域研究のあり方をめぐって，アメリカ合衆国の諸機関における地域研究の状況に関して調査を行った。主な訪問先は，スミソニアン研究所・中東研究所，ハーバード大学・中東研究センター，マサチューセッツ工科大学・アガカーン計画事務局，コロンビア大学・中東研究センターで，これらの研究機関の実績，組織行政を把握し，必要な資料の収集，分析を行った。

1991年度：150万円

b. 本研究所スタッフが研究分担者として参加しているもの

「中国広東省梅県の宗教とくに功德儀礼の人類学的調査」（1990年度，研究代表者：伊藤亜人（東京大学）），参加者：末成道男

「台湾苗栗県西湖郷の功德儀礼を中心とした人類学的調査」（1991年度，研究代表者：伊藤亜人（東京大学）），参加者：末成道男

「アジア系ラテンアメリカ人の民族性と国民統合」（1991年度，研究代表者：前山隆（静岡大学）），参加者：関本照夫

「南アジア近・現代における経済変動と社会変化」（1991年度，研究代表者：谷口晋吉（一橋大学）），参加者：柳澤悠

○文部省在外研究

蜂屋邦夫 「中国思想史における学術研究」

北京大学哲学系，中国社会科学院哲学研究所・世界宗教研究所，上海社会科学院宗教研究所，四川社会科学院哲学研究所の関係する研究者との学術交流。

VIII 研究活動

付随的研究として、山東省嶗山、遼寧省瀋陽・千山、北京、上海、江蘇省蘇州・茅山、四川省重慶などの地方の道観を調査し、道士と交流した。以上の研究の成果の一部は、91年度の東文研報告として刊行した。

1990年3月～12月、約400万円

○文部省科学研究費奨励研究(A)

小倉 泰 「ヒンドゥー寺院の象徴性についての研究——伽藍配置による考察」

ヒンドゥー寺院建築について記述したヴァーストゥシャーストラとよばれるサンスクリット文献の記す平面設計の理論が現実にどの程度まで応用されていたのかという問題を、南インドの初期チョーラ期の寺院の伽藍配置図面をもとに考察した。その結果建築儀礼にしばしば用いられ、ヒンドゥー教徒のひとつの世界観を縮約しているといわれるマンダラという観念が寺院の平面設計における比例寸法に密接に係しているという事実を明らかにした。

1990年度：60万円

○日本学術振興会国際共同研究

原洋之介 「フィリピン農地改革の研究」

研究代表者：原洋之介（東京大学東洋文化研究所）、研究分担者：福井清一（九州大学）、清水展（九州大学）、永野善子（神奈川大学）、Alain de Tanvry（カリフォルニア大学）、Elizabeth Sandoulet（カリフォルニア大学）、Celito F. Habito（フィリピン大学）

本研究は、マルコス時代に開始され現在もフィリピン経済政策の最重要課題ともいえる米作地帯での農地改革に関して、その実施状況とその農村内諸階層への影響とを、ルソン・パナイ両島の数カ所の農村での現地調査によって明らかにしようと試みたものである。

実施状況に関しては、不在地主が支配的な稲作地帯では農地改革がそれなりに実施されているのに、中小零細地主の村落では農地改革の実施が遅れている

ことが明らかになった。またその効果に関しては、受益農民が新たな富農層とでもいえるようになってきているのに対して、農地改革は必ずしもフィリッピン農村の最大の問題である土地なし層の経済状況の改善にはつながっていない事態が明らかになった。

1990～91年度：330万円

○三菱財団人文科学研究助成

池田 温 「『唐令拾遺補』の編纂及び唐・日両令の比較研究」

研究代表者：池田温（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：小口彦太（早稲田大学），坂上康俊（九州大学），高塩博（国学院大学），古瀬奈津子（国立歴史民俗博物館），川村康（東京大学東洋文化研究所）

仁井田陞『唐令拾遺』（1933年）の補訂作業として、唐令遺文の拾集だけでなく、日本大宝令の復元、唐日両令の比較研究などの共同作業を行っている。その成果は将来『唐令拾遺補』として世に問うことになる。

1991年度：200万円

戸田禎佑 「海外所在中国絵画の抜本的再調査」

参加者、調査研究の概要は、文部省科学研究費補助金国際学術研究の項を参照。

1990～91年度：500万円

3. 私費による海外学術調査

末成道男 「台湾における功德儀礼の分布と差異の確認のためのサーヴェイ」

1991.8～9.

「台湾苗栗県西湖郷の関帝廟の建醮儀礼およびサイシャット族の祖先祭祀の人類学的調査」

1991.12.

VIII 研究活動

小島 毅 1991年10月より1992年3月まで、台湾の中央研究院中国文哲研究所等の訪問研究者として台北に滞在し、明清思想史に関する文献資料の調査・収集と、祠廟で行れる祭礼の実態調査に従事した。

宮脇博史 1991年4月から一年間、韓国にて海外現地調査を行った。主たる内容は、1) 旧韓国時代と植民地時代の土地台帳を調査、収集するとともに、両者を比較して植民地化に伴う土地所有関係の変化を明らかにすること、2) 近年急速に発掘されつつある李朝後期から植民地期にかけての地主文書、私文書を調査すること、3) 89, 90年度に行った植民地期の水利組合に関する日・韓共同研究の成果を整理、刊行することで、概ね順調に進行した。

永ノ尾信悟 1)1990年6月および1991年7月の2回、インドのオリッサ州の海岸部にある宗教都市プリーで、ジャガンナータ寺院の大規模な山車巡行祭を見る機会を得た。
2)1992年3月に、インドのビハール州北部のミティラー地方の農村で、バラモンたちの宗教儀礼を見せてもらい、非バラモン層の人々の間に伝わる民間伝承の話聞かせてもらった。

松谷敏雄 CNRSのB.リヨネを長とするフランス隊が、ハッスーナIa期の文化層を包含すると思われる遺跡を見つけ、その遺跡の発掘を我々に依頼してきた。たしかにそうであるか否かを確かめるために現地を訪れた。実見の結果、その判断に間違いがないことがわかったので、ダマスカスの当局に発掘依頼をしてきた。(1991.8~9.)

E 国際学術交流

1. 外国出張 (1990～91年度)

氏名	出張先	期間	目的
濱下 武志	中国	90. 3. 31 ～90. 5. 10	中国の対外経済関係史に関する調査
戸田 禎佑	中国	90. 4. 9 ～90. 4. 15	故宮博物院・上海博物館において中国絵画調査
小川 裕充	中国	90. 4. 9 ～90. 4. 15	故宮博物院・上海博物館において中国絵画調査
猪口 孝	米国	90. 4. 13 ～90. 4. 22	政治体制比較に関する研究会参加及び国際研究会年次大会出席
友杉 孝	タイ	90. 4. 25 ～92. 4. 24	バンコク社会史の研究及び周辺農村調査
小川 裕充	西独	90. 5. 1 ～90. 8. 4	ハイデルベルク大学美術史研究所における中国絵画の調査研究
宮嶋 博史	韓国	90. 5. 4 ～90. 5. 10	韓国近代の経済発展に関する研究会出席
猪口 孝	スペイン, 韓国	90. 5. 13 ～90. 5. 25	「民主主義と政治学の発展」学術会議及び「国家・政治・経済」学術会議に出席
猪口 孝	米国	90. 6. 6 ～90. 6. 11	「太平洋における冷戦をこえて」国際会議出席
鈴木 董	サウジアラビア, エジプト	90. 6. 16 ～90. 6. 27	「イスラームの都市性」に関する国際シンポジウムの準備, 打ち合わせ
原 洋之介	サウジアラビア, エジプト	90. 6. 16 ～90. 6. 27	「イスラームの都市性」に関する国際シンポジウムの準備, 打ち合わせ
濱下 武志	香港, 中国	90. 6. 27 ～90. 7. 6	香港史資料検討会議に出席及び資料蒐集
後藤 明	イスラエル	90. 6. 28 ～90. 7. 10	「ジャーヒリーヤからイスラームへ」第5回コロキウム国際セミナー出席

VIII 研究活動

斯波 義信	台湾	90. 7. 13 ～90. 7. 16	初期近代中国の社会と文化に関する 会議出席
猪口 孝	インドネシア	90. 7. 23 ～90. 8. 21	東南アジアにおける政治体制比較研 究調査
濱下 武志	香港, 中国	90. 7. 29 ～90. 8. 9	中国海関史第2回会議出席及び関係 資料収集
羽田 正	トルコ, イラン, イ ンド	90. 8. 3 ～90. 9. 20	イスラム世界の都市空間構成に関す る歴史学的研究
未成 道男	中国	90. 8. 10 ～90. 9. 8	漢族ならびにその周辺少数民族コ ミュニティーの研究に関する実地調 査
加納 啓良	シンガポール, マ レーシア, オラン ダ, ベルギー	90. 8. 12 ～90. 8. 26	マラッカ海峡地域社会経済史, イ ンドネシア経済史に関する調査及び国 際経済史学会出席
宮嶌 博史	韓国	90. 8. 16 ～90. 8. 25	「韓国の経済発展に関する歴史的研 究」シンポジウム出席及び資料調査
濱下 武志	連合王国, ベル ギー, 中国	90. 8. 16 ～90. 9. 8	第10回国際経済史学会並びに「近代 中国と世界」国際討論会出席及び資 料収集
原 洋之介	フィリピン	90. 8. 19 ～90. 9. 1	アジア諸国の農村人口と農業開発に 関する調査
鈴木 董	トルコ, ギリシャ	90. 8. 21 ～90. 9. 11	トルコ歴史学協会大会出席及び資料 調査
小倉 泰	インド	90. 8. 21 ～90. 9. 20	イスラム世界の都市空間構成に関す る歴史学的研究
田仲 一成	韓国	90. 8. 22 ～90. 8. 25	中国学国際学術会議出席
猪口 孝	米国	90. 8. 25 ～90. 9. 3	米国政治学会出席
斯波 義信	中国	90. 8. 25 ～90. 9. 7	中国周辺部における言語接触と社会 文化変容に関する調査
上村 勝彦	オーストリア	90. 8. 25 ～90. 9. 8	世界サンスクリット学会に出席
田仲 一成	中国	90. 8. 28 ～90. 10. 7	東アジアにおける農村祭祀演劇の比 較研究
加納 啓良	インドネシア	90. 9. 2 ～90. 10. 13	現地調査と歴史データによるインド ネシア農家経済の系譜的分析

田中 明彦	米国	90. 9. 10 ～90. 9. 16	日本の国際的課題研究及び日米知的 交流研究に関する研究会出席
戸田 禎佑	オーストリア, チェ コスロバキア, オラ ンダ, ドイツ, ス ウェーデン, スイ ス, スペイン, 連合 王国, フランス, イ タリア	90. 9. 14 ～90. 11. 2	ヨーロッパ所在の中国絵画に関する 調査
小川 裕充	オーストリア, チェ コスロバキア, オラ ンダ, ドイツ, ス ウェーデン, スイ ス, スペイン, 連合 王国, フランス, イ タリア	90. 9. 14 ～90. 11. 2	ヨーロッパ所在の中国絵画に関する 調査
林 秀 薇	オーストリア, チェ コスロバキア, オラ ンダ, ドイツ, ス ウェーデン, スイ ス, スペイン, 連合 王国, フランス, イ タリア	90. 9. 14 ～90. 11. 2	ヨーロッパ所在の中国絵画に関する 調査
猪口 孝	ベルギー, ドイツ, フランス, イタリア	90. 9. 15 ～90. 10. 3	欧州共同体の政治経済過程に関する 調査
丸尾 常喜	中国	90. 9. 22 ～90. 10. 1	東アジアにおける農村祭祀演劇の比 較研究
斯波 義信	米国, 中国	90. 9. 30 ～90. 12. 25	中国経済史に関する調査研究及び国 際中国歴史地理学術討論会出席
福嶋 真人	連合王国, オラン ダ, インドネシア, タイ	90. 10. 18 ～91. 7. 26	東南アジア諸社会における国家編 成, 宗教変動及び個人の認知構造の 変化に関する研究
濱下 武志	中国, 香港	90. 10. 19 ～90. 10. 29	中国塩業史国際会議出席及び資料収 集
宮嵜 博史	韓国	90. 10. 21 ～90. 10. 28	土地調査事業の歴史的 성격に関する 資料調査
猪口 孝	中国	90. 10. 29 ～90. 10. 31	東北アジアにおける国際経済関係会 議出席
濱下 武志	中国	90. 12. 3 ～90. 12. 13	中国近代史国際会議出席及び資料収 集
原 洋之介	ラオス	90. 12. 12 ～90. 12. 22	経済開発基礎条件に関する現地調査

VIII 研究活動

田仲 一成	台湾	90.12.25 ～91.1.8	台湾南部地区における郷村祭祀演劇の調査
田中 明彦	米国	91.1.28 ～91.2.2	「日欧米政策対話」合同会議出席
斯波 義信	中国	91.2.8 ～91.2.20	「ユネスコ海のシルクロード」シンポジウム参加
末成 道男	台湾	91.2.16 ～91.3.16	台湾客家系漢族の上元節を中心とする旧正月行事に関する資料収集
宮嶌 博史	韓国	91.2.19 ～91.2.24	「韓国の経済発展に関する歴史的研究」共同研究会出席
加納 啓良	インドネシア	91.2.19 ～91.3.2	ガジャマダ大学出版会記念セミナー出席及び研究交流
田仲 一成	中国, 香港, シンガポール, 台湾	91.2.20 ～91.3.28	南戯及び目連戯国際学術検討会出席及び香港, シンガポール, 台湾演劇調査
猪口 孝	オーストラリア	91.2.23 ～91.2.28	アジア・太平洋地域の政治, 経済, 外交にかかわる諸問題に関する会議出席
林 佳世子	中国	91.3.1 ～91.3.15	東トルキスタンのイスラム都市社会に関する実地調査
濱下 武志	米国	91.3.29 ～92.3.28	中国経済史に関する資料調査及び学会参加
宮嶌 博史	韓国	91.3.29 ～92.9.28	李朝後期, 植民地期の農村経済史に関する資料調査
田中 明彦	ソヴィエト	91.3.31 ～91.4.9	アジア安全保障問題に関する4か国会議出席
加納 啓良	オランダ	91.4.6 ～91.4.13	インドネシアの貧困問題と開発に関する国際会議出席
関本 照夫	インドネシア	91.4.20 ～91.5.1	インドネシアの伝統的國家と政治体系に関する研究及び研究成果報告会出席
原 洋之介	タイ, ラオス, インドネシア	91.4.28 ～91.5.11	経済開発と環境に関する現地調査
田中 明彦	米国	91.5.19 ～91.5.27	日本の国際的課題及び政治・経済問題に関する会議出席
猪口 孝	韓国	91.6.6 ～91.6.10	韓国国際政治学会参加

永ノ尾信悟	インド	91. 6. 18 ～91. 7. 23	寺院の山車行航祭の現地調査
田中 明彦	オーストラリア	91. 7. 8 ～91. 7. 12	アジア太平洋地域における日本の経済的及び政治的安全保障に関する学会出席
柳澤 悠	インド	91. 7. 14 ～91. 9. 15	南アジア近・現代における経済変動と社会変化に関する調査及び資料収集
加納 啓良	インドネシア	91. 7. 17 ～91. 8. 15	インドネシア農家経済に関する現地調査
猪口 孝	アルゼンチン	91. 7. 20 ～91. 7. 27	国際政治学会ブエノスアイレス世界大会出席
池田 温	中国	91. 8. 10 ～91. 8. 23	香港大学亜洲研究中心主催1991年隋唐五代国際検討会参加並びに北京、上海機関との学術交流、資料調査
末成 道男	台湾	91. 8. 15 ～91. 9. 15	台湾客家系漢族と原住民の人類学的調査
田仲 一成	中国	91. 8. 19 ～91. 9. 7	東アジアにおける農村祭祀演劇の研究調査
加納 啓良	フィリピン	91. 8. 24 ～91. 8. 31	ニシネグロス州歴史研究会主催の「農業開発」セミナーに出席
松谷 敏雄	シリア	91. 8. 29 ～91. 9. 13	遺跡見学ならびに発掘許可取得
小倉 泰	米国, モロッコ, ラオス, ベトナム	91. 8. 30 ～92. 6. 30	ヒンドゥー寺院建築の研究
羽田 正	エジプト, イタリア	91. 9. 7 ～91. 9. 30	イスラム世界における都市空間に関する調査
林 佳世子	エジプト, トルコ, モロッコ, イタリア, スペイン	91. 9. 7 ～92. 1. 9	イスラム世界における都市空間に関する調査研究
田中 明彦	中国	91. 9. 13 ～91. 9. 17	第3回日中シンポジウム「湾岸戦争後の新世界秩序を模索して」に出席
原 洋之介	スリランカ	91. 9. 15 ～91. 9. 28	アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査
関本 照夫	トリニダードトバゴ, スリナム, ガイアナ	91. 9. 21 ～91. 10. 14	アジア系ラテンアメリカ人の民族性と国民統合についての調査

VIII 研究活動

戸田 禎佑	米国, カナダ	91.10.1 ～91.12.12	アメリカ・カナダ所在中国絵画の調査
小川 裕充	米国, カナダ	91.10.1 ～91.12.12	アメリカ・カナダ所在中国絵画の調査
林 秀 薇	米国, カナダ	91.10.1 ～91.12.12	アメリカ・カナダ所在中国絵画の調査
松丸 道雄	中国, 香港	91.10.21 ～91.12.3	中国新出の殷周考古資料調査
小島 毅	台湾	91.10.21 ～92.3.10	清代思想史に関する文献の調査・収集および現代の台湾における伝統儀礼の実態調査
劉 永 鳳	韓国	91.11.9 ～91.11.18	韓国農業関係資料収集
田中 明彦	シンガポール	91.11.14 ～91.11.16	仏トムソン研究所主催「東南アジア・セミナー」で「アジアにおける日本の役割」と題する報告を行う
田中 明彦	連合王国	91.11.18 ～91.11.24	「日米欧政策対話」研究プロジェクトの合同会議に出席
鎌田 繁	イラン, トルコ	91.11.28 ～91.12.31	イスラーム思想に関する文献調査
末成 道男	台湾	91.12.2 ～91.12.29	台湾客家村落における建礎行事の調査
羽田 正	モロッコ, スペイン	91.12.5 ～92.1.9	イスラーム世界における都市空間に関する調査
山田 三郎	インド, タイ, フィリピン, 台湾	91.12.11 ～91.12.30	アジア農業調査総括のための現地調査ならびに専門家との討議
池田 温	台湾, 香港	91.12.26 ～91.12.31	中国文化大学主催第2回国際華学会議出席及び香港中文大学等と研究連絡
福嶋 真人	連合王国	92.1.7 ～92.8.20	文化人類学調査および研究
後藤 明	スリランカ, エジプト, スペイン, オマーン	92.1.17 ～92.3.18	平成3年度総務庁主催「世界青年の船」事業に主任指導官として参加
山田 三郎	香港, フィリピン	92.1.20 ～92.1.28	アジア生産性機構第32回各国生産性本部代表者会議での報告およびアジア開発銀行の第3回アジア農業調査打ち合わせ

田中 明彦	米国	92. 1. 23 ～92. 2. 2	MIT 主催 Seminar XXI, 全米社会 科学評議会 (SSR) での阿部フェ ローシップ打ち合わせ会合, および Fletcher/UNA-USA Roundtable に出席
劉 永 鳳	韓国	92. 1. 24 ～92. 2. 1	韓国・国立済州大学・農学部訪問
原 洋之介	ネパール	92. 1. 24 ～92. 2. 2	経済基礎調査
田仲 一成	中国	92. 2. 13 ～92. 2. 23	江西省農村春節演劇調査
永ノ尾信悟	インド	92. 3. 2 ～92. 3. 20	ビハール州北部農村の宗教儀礼と民 間伝承の調査
田中 明彦	米国	92. 3. 7 ～92. 3. 11	阿部フェローシップ運営委員会出席 のため
原 洋之介	インドネシア, タイ	92. 3. 7 ～92. 3. 16	経済開発の現状と環境問題の調査
田仲 一成	中国	92. 3. 22 ～92. 4. 4	広西儺戯国際学術討論会出席
丘山 新	ドイツ	92. 3. 26 ～92. 7. 31	ドイツ・ミュンヘン大学 Institut für Ostasienkunde での中国仏教・敦煌 文献に関する共同研究
鈴木 董	英国, タイ	92. 3. 28 ～92. 4. 17	英国ケンブリッジ大学での「18世紀 オスマン史会議」出席及びオスマン 史資料の調査・収集等のため

VIII 研究活動

2. 外国人研究者等 (1990～91年度)

氏名(国籍・現職)	期間	研究課題	担当教官
陳 洪 真 (中国・北陸鋼鉄研究総院・東京大学工学部・院生)	1990. 4. 1～91. 3. 30	唐宋時代における冶金技術と社会組織	斯波 義信
朱 蔭 貴 (中国・社会科学院研究生)	1990. 4. 1～91. 3. 31	日中両国の近代交通運輸業と経済発展との比較研究	濱下 武志
Neil Katkov (米国・ハーバード大学・院生)	1990. 6. 15～92. 3. 31	中国唐宋朝時代の社会史	池田 温
申 英 仙 (韓国・ソウル国民大学校造形大学・副教授)	1990. 7. 1～91. 2. 28	東洋の衣生活文化における共通的な背景—思想, 線と文様について—	松谷 敏雄
孔 裕 植 (韓国・イリノイ大学・社会学部・助教授)	1990. 8. 1～92. 7. 31	日本政府の総理交代と日韓関係への影響	田中 明彦
Narayana Nagesh (インド・Jawaharlal Nehru 大学・院生)	1990. 10. 1～91. 11. 30	日本・フィリピン関係 1965～1986	猪口 孝
Sadria, Modjtaba (カナダ・'82-'89ケベック, モントリオール大学・助教授)	1989. 10. 1～92. 3. 31	日本の中東政策	後藤 明
Purnendra Chandra Jain (インド・Griffith 大学 (オーストラリア)・講師)	1990. 11. 15～91. 2. 15	援助・貿易及び政策—南アジアにおける日本—	柳澤 悠
Renato Sagun Velasco (フィリピン・フィリピン大学・助教授)	1991. 1. 1～91. 9. 30	日比議会比較	猪口 孝
趙 全 勝 (中国・オールド・ドミニオン大学・助教授)	1991. 2. 1～91. 5. 31	日米の対中政策	猪口 孝
从 翰 香 (中国・社会科学院・近代史研究所・主任)	1991. 3. 1～91. 3. 21	日本に別蔵される華北経済史資料の調査・研究	濱下 武志
Chaiwat Khamchoo (タイ・チュラロンコン大学政治学部・助教授)	1991. 3. 1～92. 2. 29	東アジア及び東南アジア政策を中心とする戦後日本の対外政策	田中 明彦
辜 美 高 (シンガポール・シンガポール大学・講師)	1991. 3. 31～91. 4. 26	明清通俗小説のテキスト批判	田仲 一成

Courtney Purrington (米国・ハーバード大学・院生)	1991. 4. 1～91. 7. 31	日米・日ソ関係の理論的・実証的研究	猪口 孝
張 中 良 (中国・社会科学院・研究生)	1991. 4. 19～92. 3. 31	中日現代文学の比較研究	丸尾 常喜
丘 培 培 (中国コロンビア大学・院生)	1991. 5. 30～91. 12. 31	芭蕉における道家思想の研究	蜂屋 邦夫
顔 娟 英 (台湾・台湾大学芸術史研究所・副教授)	1991. 7. 1～91. 8. 31	留日台湾美術家の研究	戸田 禎佑
Bachtiar Alam (インドネシア・ハーバート大学・院生)	1991. 8. 10～92. 3. 31	沖縄の宗教とその変動	関本 照夫
周 紹 泉 (中国・社会科学院歴史研究所・副研究員)	1991. 9. 15～91. 11. 14	徽州文書と徽州地域史研究	池田 温
Adrian Davis (米国・ハーバート大学・院生)	1991. 10. 1～92. 7. 31	Homicide and the State during the Qing Dynasty	濱下 武志
高 明 潔 (中国・中央民族学院民族研究所・講師)	1991. 10. 1～92. 9. 30	内モンゴ遊牧社会の人類学的研究—内モンゴルサンボリケ地域の遊牧世界—	末成 道男
Asha Islam Nayeem (バングラディッシュ・ダッカ大学・専任講師)	1991. 10. 1～92. 9. 30	バングラディッシュに対する日本の経済的文化的貢献	柳澤 悠
Alexei Zagorsky (ソ連・科学アカデミー附属世界経済国際関係研究所・上級研究員)	1991. 11. 1～92. 2. 29	日本の野党の社会的バックグラウンド	猪口 孝
馬 建 華 (中国・福建師範大学(福清分校)・講師)	1991. 11. 1～92. 2. 31	日本及び欧米の芸術文化理論—戯曲論を中心に—	田仲 一成
彭 飛 (中国・上海大学文学院・副教授)	1991. 12. 6～91. 12. 20	東アジアにおける農村祭祀演劇の比較研究	田仲 一成
劉 共 祚 (韓国・慶熙大学校・教授)	1991. 12. 25～92. 12. 24	中東近代史—アラブ・イスラエル間紛争史を中心に—	後藤 明
Mansurnoor, Iik Arifin (インドネシア, プルネイ・ダルサラム大学・講師)	1992. 3. 1～92. 4. 30	イスラーム世界におけるウラマーの役割(とくに東南アジアイスラームにおいて)	鎌田 繁
金 鴻 埴 (韓国・慶熙大学校政経大・教授)	1992. 3. 1～93. 2. 28	朝鮮総督府の農業政策と農村社会の変化	原 洋之介

3. 海外との図書交換

下記の研究機関に『東洋文化研究所紀要』または『東洋文化』を送付し、図書の交換を行っている。

アメリカ

American Oriental Society

Boston Museum of Fine Arts

Cleveland Museum of Art

Freer Gallery of Art

Chinese-Japanese Library, Harvard-Yenching Institute

East Asian Collection, Hoover Institution on War, Revolution and Peace

Library of Congress

Smithsonian Institution

Editor, "Journal of Near Eastern Studies"

Asian Studies, Arizona State Univ.

Research Library, Univ. of California

East Asiatic Library, Univ. of California

Far Eastern Library, Univ. of Chicago

East Asian Library, Columbia Univ.

Cornell Univ. Library

Duke Univ. Library

East-West Center, Univ. of Hawaii

Univ. of Illinois Library

Asia Library, Univ. of Michigan Libraries

Univ. of New Mexico

Charles Patterson van Pelt Library, Univ. of Pennsylvania Library

Gest Oriental Library, Princeton Univ. Library

Dept. of Asian Languages, Stanford Univ.

Far Eastern Library, Univ. of Washington Libraries
Memorial Library, Univ. of Wisconsin
East Asian Collection, Yale Univ. Library

イギリス

British Library Lending Division
Museum of Mankind Library
Dept. of Oriental Books, Bodleian Library, Oxford
Dept. of Oriental Manuscript & Printed Books, British Library
Univ. Library, Cambridge Univ.
Oriental Institution Library, Univ. of Oxford
Royal Asiatic Society of Great Britain
School of Oriental and African Studies, Univ. of London

イスラエル

Jewish National and Univ. Library

イタリア

Istituto Giapponese di Cultura in Roma
Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente
Istituto Universitario Orientale

イラン

Central Library, Univ. of Tehran

インド

Asiatic Society, Calcutta
Digest of Indological Studies, Kurukshetra Univ.
Indian Inst. of Economics Himayatnagar
Editor of Journal of M.S. Univ. of Baroda
National Archives of India
Adyar Library & Research Centre, Madras
Anthropological Society of Bombay, New Delhi

VIII 研究活動

Indian Council of World Affairs

Jawaharlal Nehru Univ.

Oriental Inst. M.S. Univ. of Baroda

インドネシア

Museum Pusat

オーストラリア

National Library of Australia, Canberra

Asian Studies Library, Australian National Univ.

Dept. of Oriental Studies, Sydney Univ.

オーストリア

Inst. für Japanologie, Univ. Wien

オランダ

Sinologisch Instituut, Leiden

カナダ

Pacific Affairs, Univ. of British Columbia

シンガポール

Central Library, National Univ. of Singapore

South Seas Society

Malayan Branch of Royal Asiatic Society

スリランカ

Periodical Division Library, Univ. of Peradeniya

スイス

Bernisches Historisches Museum

スウェーデン

Ostasiatiska Museet, Stockholm

Universitetsbiblioteket, Upsala

タイ

National Library

Siam Society

チェコスロバキア

Ceskoslovenska Akademie Ved Orientalni Ustav.

デンマーク

Kongelige Danske Videnskabernes Selskab

ドイツ (旧西ドイツ)

Archäologische Bibliothek, Landesdenkmalamt Baden-Württemberg

Deutsche Forschungsgemeinschaft Bibliotheksreferat, Bonn

Sinologisches Seminar, Georg-August Univ. zu Göttingen

Sinologisches Seminar, Univ. Heidelberg

Seminar für Sprache und Kultur Japans, Univ. Hamburg.

Ostasiatisches Seminar, Univ. Köln

Monumenta Serica Institut, Siegburg

Ostasien-Inst., Ruhr-Univ. Bochum

Stiftung Preussischer Kulturbesitz Staatsbiblio.

Südasiens-Institut, Univ. Heidelberg

Universitätsbibliothek, Univ. Heidelberg

ドイツ (旧東ドイツ)

Akademie der Wissenschaften

Asien-Afrika-Abteilung, Deutsche Staatsbibliothek, Berlin

トルコ

Inst. for the Study of Turkish Culture

Milli Eđitim Basımevi

Nederlands Historisch-Archaeologisch Instituut

ニュージーランド

Dept. of Geography, Victoria Univ. of Wellington

パキスタン

Karachi Univ. Library

Ⅷ 研 究 活 動

ハンガリー

Magyar Tudományos Akadémia Könyvtára, Budapest

フィリピン

Inst. of Asian Studies, Univ. Philippines

Philippine Studies

University of Santo Tomas

フィンランド

Suomalais-Ugrilainen Seura

ブラジル

Museu Paulista

フランス

Revue historique

Société asiatique de Paris

Centre de documentation sur l'Extrême Orient

Musée Ceruschi, Revue bibliographique de sinologie

Bibliothèque nationale

C.N.R.S.-Centre de documentation

Ecole française d'Extrême-Orient

Ecole nationale des langues orientales

Inst. des hautes études chinoises

Musée de l'homme

Musée Guimet

ベトナム

Vietnam National Library

ベルギー

Universit. Biblioteek-Katholieke Univ. Leuven

ポーランド

Japanese Section, Oriental Inst. Uniwersytet Warszawski

マレーシア

National Library of Malaysia

University of Malaya

メキシコ

Inst. Nacional de Anthropologia e Historia, Biblioteca Central

ルーマニア

Asociata de Studii Orientale, Bucuresti

ロシア

Library, Academy of Sciences, Leningrad

Inst. of Scientific Information on Social Sciences of the USSR Academy

Inst. of Asian People, Academy of Sciences of USSR

Lenin Memorial Library, Moscow

Saltykov-Shchedrin Public Library, Leningrad

大韓民国

永信 Academy 韓国学研究所

円光大学宗教問題研究所

延世大学校国学研究院

韓国経済学会

韓国国会図書館

韓国精神文化研究院

韓国史学会

韓国大学博物館協会

韓国貿易協会

慶熙大学校史学会

慶熙大学校付設伝統文化研究所

慶北大学校中央図書館

高麗大学校亜細亜問題研究所

国際学術院

VIII 研 究 活 動

国史編纂委員会

国立中央博物館図書室

震壇学会

成均館大学校大東文化研究院

成均館大学校人文科学研究所

成均館大学校社会科学研究所

成均館大学校附属図書館

西江大学校人文科学研究所

Seoul 大学校附属図書館

Seoul 大学校社会科学研究所

Seoul 大学校師範大学歴史科学研究室

Seoul 大学校東亞文化研究所

Seoul 特別市史編纂委員会

檀国大学校付設東洋学研究所

中央大学校図書館

中央大学校付設韓国産業研究所

忠南大学校図書館

東国大学校仏教文化研究所

東国大学校図書館

東洋史学会

仁荷大学校国際研究所

釜山産業大学史学会

釜山大学校内日本問題研究所

梨花女子大学校図書館

嶺南大学校図書館

嶺南大学校付設人文科学研究所

歴史学会

台 湾

国立芸術学院
国立故宫博物院
国立清华大学图书馆
国立成功大学文学院历史学系
国立政治大学图书馆
国立台湾师范大学历史研究所
国立台湾大学图书馆
国立台湾大学考古人类学系
国立台湾大学法学院图书馆
国立台湾大学历史学研究所
国立中央图书馆
台湾省文献委员会
台湾省立师范大学
台湾省立师范大学国文研究所
中央研究院近代史研究所
中央研究院民族学研究所
中央研究院历史语言研究所
中华学术院中国文化大学华学文库
中国文化大学图书馆
中国文化大学史学研究所
私立东吴大学图书馆

中 国

厦门大学历史研究所
华中工学院语言学研究所
吉林大学图书馆
故宫博物院
国立上海图书馆
国立北京图书馆国际交换组

VIII 研究活動

黑龍江省図書館

山東大学図書館

四川大学図書館

上海社会科学院文学研究所

新疆社会科学院考古研究所

新疆大学

西北大学図書館

陝西師範大学

中国科学院古脊椎動物与古人類研究所

中国社会科学院図書館

中国社会科学院近代史研究所

中国社会科学院考古研究所

中国社会科学院世界宗教研究所

中国社会科学院文学研究所

中国社会科学院歴史研究所

中国歴史博物館

中山大学図書館

東北師範大学図書館

南京大学図書館

武漢大学図書館

福建師範大学図書館

復旦大学図書館

文物出版社資料室

北京大学図書館

遼寧大学図書館

朝鮮民主主義人民共和国

金日成総合大学図書館

社会科学院図書館

香 港

珠海書院中国文学歷史研究所

新亞書院圖書館

香港中文大学崇基学院圖書館

香港中央大学中国文化研究所

香港大学中文系

香港大学馮平山圖書館

VIII 研究活動

4. 外国人訪問者 (1990～91年度)

氏名	年月	所属
Calder, Kent	1990. 1	アメリカ, プリンストン大学ウッドロウ・ウィルソン国際問題研究所教授
Nass, H.	1990. 1	ドイツ, デイ・ツァイト記者
Rapkin, David	1990. 1	アメリカ, ネブラスカ大学政治学部長
Smith, Patrick	1990. 1	アメリカ, インターナショナル・トリビューン記者
高 増 傑	1990. 1	中国, 社会科学院日本研究所研究員
張 利 民	1990. 2	中国, 天津社会科学院
来 新 夏	1990. 2	中国, 南開大学図書館長
Chittivanapong, Prasert	1990. 2	タイ, タマサート大学政治学部教授
Drysdale, Peter	1990. 2	オーストラリア国立大学豪日研究センター所長
Lehner, Urban	1990. 2	アメリカ, ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長
申 熙 錫	1990. 2	韓国外務省外交安保研究院教授
Husken, Frans	1990. 3	オランダ, ネイメーヘン大学教授兼アムステルダム・アジア研究センター研究員
Suryo, Djoko	1990. 3	インドネシア, ガジャマダ大学文学部長
Abu Ala, Ahmad	1990. 4	パレスチナ, PLO 経済企画局長, サメド総裁
Ledderose, Lothar	1990. 4	ドイツ, ハイデルベルク大学美術史研究所教授
McWilliam, Michael	1990. 4	イギリス, ロンドン大学東洋・アフリカ研究所長
夏 訓 誠	1990. 4	中国科学院新疆生物土壤砂漠研究所長
Gill, Stephen	1990. 5	イギリス, マンチェスター大学教授

Rawski, Evelyn S.	1990. 5	アメリカ, ピッツバーグ大学歴史学教授
Strange, Susan	1990. 5	イタリア, 欧州大学研究所教授
Volker, H.	1990. 5	在東京オランダ大使館参事官
孫 玉 石	1990. 5	中国, 北京大学中文系教授
陳 平 原	1990. 5	中国, 北京大学中文系講師
袁 靖	1990. 5	中国社会科学院考古研究所助理研究員
Aziza, Mohamed	1990. 6	チュニジア, ユーロ・アラブ移動大学長
Conway, Jill	1990. 6	アメリカ, ジョン・ホプキンス大学国際問題高等大学院ライシャワー日本研究センター所長秘書
Mytelka, Lynn	1990. 6	カナダ, カールトン大学教授
Said, Shaker	1990. 6	エジプト大使館文化参事官
Rapoport, Carlen	1990. 7	アメリカ, フォーチュン東京支局長
Sullivan, Kavin	1990. 7	イギリス, ガーディアン特派員
Van Glahn, Richard	1990. 7	アメリカ, カリフォルニア大学ロサンゼルス校歴史学教授
Nomura, Yoshimi	1990. 8	アラブ首長国連邦資料研究センター
Samarrai, Salih	1990. 8	サウジアラビア, アブドルアジーズ王大学教授
Wiener, Robert	1990. 8	アメリカ, マサチューセッツ工科大学政治学部大学院生
申 熙 錫	1990. 8	韓国外務省外交安保研究院教授
Vaziri, Mostafa	1990. 9	アメリカ, カリフォルニア州立大学講師
陳 振 中	1990. 9	中国社会科学院経済研究所研究員
陳 廷 煊	1990. 9	中国社会科学院経済研究所研究員
余 従	1990. 9	中国芸術研究院研究員

VIII 研究活動

Gernet, Jacques	1990. 10	コレージュ・ド・フランス教授 フランス学士院会員
Lahbabi, Mohamed Aziz	1990. 10	モロッコ王立アカデミー
Martin, Jurek	1990. 10	イギリス, フィナンシャル・タイムズ編集局長
Vendermeersch, Léon	1990. 10	フランス高等研究所教授
朱 国 焯	1990. 10	中国社会科学院歴史研究所研究員
朱 大 渭	1990. 10	中国社会科学院歴史研究所研究員
張 顕 清	1990. 10	中国社会科学院歴史研究所研究員
余 英 宗	1990. 10	台湾, 万通運動器材工業股份有限公司総経理
賈 植 芳	1990. 10	中国, 復旦大学中文系教授
Abdel-Malek, Anouar	1990. 11	エジプト国立中東研究センター
Al-Bakhit, Mohammad Adnan	1990. 11	ヨルダン, ヨルダン大学副学長
Amin, Mohammad Mohammad	1990. 11	オマーン, スルタンカブース大学教授
Bierman, Irene A.	1990. 11	アメリカ, カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
Boumedine, Rachid Sidi	1990. 11	アルジェリア, アルジェ大学教授
Chafe, Kabiru Sulaiman	1990. 11	ナイジェリア, アフマドベッコ大学教授
Dakkak, Ibarahim	1990. 11	イスラエル, アラブ思想フォーラム
Eikelman, Dale F.	1990. 11	アメリカ, ダルトムート・カレッジ教授
Ely, Sidi Amar Ould	1990. 11	マリ, アフマドババセンター教授
Hakim, Besim Selim	1990. 11	サウジアラビア, ファイサル王大学教授
Hanafi, Hassan	1990. 11	エジプト, カイロ大学教授

Jlali, S.Farrukh Ali	1990. 11	インド, アリーガル大学教授
Joannes, Francis	1990. 11	フランス科学研究庁 (CNRS)
Johns, Anthony H.	1990. 11	オーストラリア国立大学教授
Kourilsky, F.	1990. 11	フランス科学研究庁 (CNRS) 総局長
Lautman, J.	1990. 11	フランス科学研究庁 (CNRS) 社会人文科学局長
Mohaghegh, Mehdi	1990. 11	イラン, イスラーム百科事典財団研究所
Nizami, F.A.	1990. 11	イギリス, オックスフォードイスラエル研究センター
Omar, Musa M.	1990. 11	在東京スーダン共和国大使
Shahidi, Munira	1990. 11	タジキスタン, シャヒーディ音楽文化博物館
Sözen, Metin	1990. 11	トルコ, イスタンブル工科大学教授
Tonelson, Alan	1990. 11	アメリカ, 経済戦略研究所副所長
Wikan, Unni	1990. 11	ノルウェー, オスロ大学教授
柳 正 烈	1990. 11	韓国外国語大学校教授
余 振 貴	1990. 11	中国, 寧夏回族自治区社会科学院副研究員
Murphy, Richard	1990. 12	アメリカ, 国際関係会議, 中東部門上級研究員
Shillony, Ben-Ami	1990. 12	イスラエル, ヘブライ大学教授
姜 彬	1990. 12	中国, 上海社会科学院文学研究所研究員
Al-Harbi, Fayez I	1991. 1	サウジアラビア, サウド王大学教授
Al-Shair, Hussain	1991. 1	サウジアラビア, アル・マディーナ出版社参与
Jamjoom, Sheikh Ahmed M. S.	1991. 1	サウジアラビア, アル・マディーナ出版社参与
Katrenstein, Peter	1991. 1	アメリカ, コーネル大学教授

VIII 研究活動

Keidar, Jacob	1991. 1	在東京イスラエル大使館第一書記官
Keoheine, Robert	1991. 1	アメリカ, ハーバード大学政治学部長
Rosalio, Louise	1991. 1	香港, ファー・イースタン・エコノミック・レビュー特派員
Tsoukalis, Loukas	1991. 1	ギリシャ, アテネ大学欧州研究センター所長
Turkustani, Abdulaziz	1991. 1	サウジアラビア, イマーム・ムハンマド大学教授
Valezig, Kizpitchenko	1991. 1	ソ連科学アカデミー東洋学研究所
Zysman, John	1991. 1	アメリカ, カリフォルニア大学教授
黄 啓 方	1991. 1	国立台湾大学文学院院长
孫 玉 石	1991. 1	中国, 北京大学中文系教授
Meineke, Anne	1991. 2	デンマーク通信社記者
Mishra, S.N.	1991. 2	インド, 経済成長研究所教授
Schoenberger, Karl	1991. 2	アメリカ, ロサンゼルス・タイムズ特派員
沈 善 洪	1991. 2	中国, 杭州大学長
Attalides, Michalis A.	1991. 3	キプロス外務省キプロス問題局長 (大使)
Papoli-Yazdi, M.	1991. 3	イラン, マシュハド大学教授
Roth, Hans Jacob	1991. 3	在北京スイス大使館外交官
Stockwin, Arthur	1991. 3	イギリス, オックスフォード大学日本研究所長
Bridges, Brian	1991. 4	イギリス王立国際問題研究所研究員
Redeker, Bill	1991. 4	アメリカ, ABC ニュース特派員
吳 宏 一	1991. 4	台湾, 中央研究院中国文哲研究所長
錢 理 群	1991. 4	中国, 北京大学中文系教授
程 麻	1991. 4	中国社会科学院文学研究所研究員

Frye, R.N.	1991. 5	アメリカ, ハーバード大学名誉教授
Fukui, Haruhiro	1991. 5	アメリカ, カリフォルニア大学教授
Tiete, Joachim	1991. 5	ドイツ, コンラート・アデナウアー財団東京支部長
董 楚 平	1991. 5	中国, 浙江省社会科学院国際越文化研究中心研究員
毛 昭 晰	1991. 5	中国, 杭州大学教授 (考古系)
Berger, Suzanne	1991. 6	アメリカ, マサチューセッツ工科大学政治学部部長
Ovschanikov, Evgenii	1991. 6	ソ連, ノーヴァヤ・プレーミャ特派員
Onchan, Tongroi	1991. 7	タイ国カセサート大学教授
王 延 林	1991. 7	中国, 華東師範大学講師 (漢語專業)
徐 天 進	1991. 7	中国, 北京大学考古系講師
石 守 謙	1991. 8	台湾大学芸術史研究所所長兼教授
Mauil, Hanns	1991. 9	ドイツ, アイヒシュタット大学政治学教授
周 紹 泉	1991. 9	中国社会科学院歴史研究所研究員
李 欧 梵	1991. 9	アメリカ, シカゴ大学教授
劉 再 復	1991. 9	中国社会科学院文学研究所前所長
林 毓 生	1991. 9	アメリカ, ウィスコンシン大学歴史学系教授
蔡 源 煌	1991. 9	台湾大学外文系教授
Diamond, Michael	1991. 10	イギリス, BBC 記者
Henry, Taylor	1991. 10	アメリカ, CNN 記者
Juergensmeyer, Mark	1991. 10	アメリカ, ハワイ大学アジア太平洋研究所長
Pineda-Ofreneo, Rosalida	1991. 10	フィリピン大学助教授
Tankha, Brij	1991. 10	インド, デリー大学中国・日本研究学部専任講師

VIII 研究活動

Toulson, Robert	1991. 10	アメリカ, ヒューストン・クロニクル記者
王 德 厚	1991. 10	中国, 北京魯迅博物館副館長
干 小 薇	1991. 10	中国科学院研究員
嚴 家 炎	1991. 10	中国, 北京大学中文系教授
陳 林 声	1991. 10	台湾, 万通運動器材工業股份有限公司副總經理
楊 伯 江	1991. 10	中国, 現代国際関係研究所研究員
趙 円	1991. 10	中国社会科学院文学研究所研究員
Calnard, J.	1991. 11	フランス科学研究庁 (CNRS) 研究員
Menon, S.	1991. 11	在東京インド大使館公使
Schmiegelow, Michelle	1991. 11	ベルギー, ルーヴァン大学世界経済戦略研究センター所長
Schmiegelow, Henrik	1991. 11	ドイツ大統領府補佐官
Vij, Ritu	1991. 11	アメリカ, ミズーリー大学政治学部教授
胡 如 雷	1991. 11	中国, 河北省社会科学院歴史研究所長
蔣 炳 釗	1991. 11	中国, 厦門大学人類学部教授
劉 興 邦	1991. 11	中国, 湖南省湘潭大学哲学系講師
韋 慶 遠	1991. 11	中国, 人民大学教授
欧陽啓明	1991. 12	中国, 北京図書館善本図書部金石組研究員
張 伝 璽	1991. 12	中国, 北京大学歴史系教授
彭 飛	1991. 12	中国, 上海大学文学院中文系教授
Fong, Wen	1992. 1	アメリカ, プリンストン大学美術学部教授
Hildebrand, Barry	1992. 1	アメリカ, タイム東京支局長
吳 哲 夫	1992. 1	台湾, 国立故宮博物院研究員 国立政治大学兼任教授

Cooper, Robert	1992. 2	イギリス外務省政策企画部長
Dewandre, Nicole	1992. 2	ベルギー, ヨーロッパ共同体本部未来 展望単位研究員
Taylor, Henry	1992. 2	アメリカ, CNN 記者
Wanandi, Jusuf	1992. 2	インドネシア, 国際戦略問題研究所会 長
Wong, Debora	1992. 2	アメリカ, パブリック・レイディオ・ ステーション香港支局長
金 国 振	1992. 2	韓国外交安保研究院教授
嚴 汝 嫻	1992. 2	中国社会科学院民族研究所教授
周 季 華	1992. 2	中国社会科学院研究員
劉 耀 荃	1992. 2	中国, 広東省民族研究所長
Clesse, Armand	1992. 3	ルクセンブルグ, 国際欧州問題研究所 長
Gnoli, G.	1992. 3	イタリア中東亜研究所長
Milner, Anthony C.	1992. 3	オーストラリア国立大学東南アジア史 教授

F 学内関連部局との協力体制

本研究所で進められている班研究は、研究所教官の他に本学内他部局教官及び学外研究者（136名）と協同で行われており、現在以下のような学内教官が参加している。

○文学部

池田知久，平山久雄，末木文美士，大木康，広瀬玲子，藤井省三，溝口雄三，岸本美緒，武田幸男，辛島昇，粟屋利江，土田龍太郎，桜井由躬雄，蔀勇造，佐藤次高，中村廣治郎，竹下政孝，横地優子

○教養学部

山下晋司，戸倉英美，長崎暢子，船曳建夫，中村雄祐，石井明，若林正文，山影進，古田元夫，小川晴久，本村凌二，杉田英明

○農学部

藤田夏樹，永田信，田中学

○社会科学研究所

田嶋俊雄，藤原帰一，末広昭

計36名

なお、法学部，経済学部，文学部，社会科学研究所と図書閲覧に関する相互利用協定を結んでいる。

G 国内研究機関との協力活動

〔1990年度〕

委員委嘱

氏名	委嘱先	委員会等の名称	期間
濱下 武志	ユネスコ東アジア文化研究センター	機関紙「東アジア文化研究」編集専門委員 East Asian Cultural Studies	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
田中 明彦	放送教育開発センタ	研究協力者 (学習到達度に応じた) 補助教材の研究開発)	1990. 6. 1 ～91. 3. 31
斯波 義信	文部省高等教育局	大学設置・学校法人審議会専門委員 (大学設置分科会)	1990. 7. 1 ～91. 3. 31
田中 明彦	経済企画庁	経済審議会臨時委員	1990. 10. 1 ～91. 9. 30

研究委嘱

氏名	委嘱先	名称等	期間
宮嵜 博史	国立民族学博物館	韓国社会：伝統の形成とそのトランスフォーメーション	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
福嶋 真人	国立民族学博物館	上座部仏教社会の宗教	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
末成 道男	国立民族学博物館	韓国社会：伝統の形成とそのトランスフォーメーション	1990. 8. 1 ～91. 3. 31
後藤 明	東京外語大・AA研	イスラム圏における異文化接触のメカニズム, 他	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
濱下 武志	東京外語大・AA研	東アジアの社会変容と国際環境	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
柳澤 悠	東京外語大・AA研	南アジアにおける社会集団形成過程に関する比較研究	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
鈴木 董	東京外語大・AA研	西アジア研究資料のデータベース化に関する基礎的研究	1990. 4. 1 ～91. 3. 31
関本 照夫	東京外語大・AA研	「未開」の概念の再検討, 東南アジアの政治と文化, 他	1990. 4. 1 ～91. 3. 31

VIII 研究活動

斯波 義信	国際日本文化研究センター	共同研究：歴史認識と歴史意識	1990. 4. 1 ～91. 3.31
田中 明彦	北海道大学スラブ研究センター	ソ連東欧諸国の変動と国際システムへの再統合	1990.10. 1 ～92. 9.30

教官の併任委嘱

氏名	委嘱先	併任官職名	期間
板垣 雄三	国立民族学博物館	第二研究部教授	1990. 4. 1 ～91. 3.31
関本 照夫	国立民族学博物館	第二研究部助教授	1990. 4. 1 ～91. 3.31

[1991年度]

委員委嘱

氏名	委嘱先	委員会等の名称	期間
松谷 敏雄	日本学術会議	東洋学研究連絡委員会委員	1991. 4. 1 ～91.10.20
末成 道男	日本学術会議	東洋学研究連絡委員会委員	1991.12. 1 ～94.10.20
後藤 明	国立民族学博物館	地城研究の推進体制に関する調査会議委員	1991. 4. 1 ～92. 3.31
後藤 明	国立民族学博物館	同上専門部会委員	1991. 4. 1 ～92. 3.31
猪口 孝	自治省	地方公共団体の完全週休二日制に関する委員会委員	1991. 4. 1 ～91. 9.30
田中 明彦	経済企画庁 国民生活局	国民生活審議会臨時委員	1991.10.～ (約1年間)

研究委嘱

氏名	委嘱先	名称等	期間
鈴木 董	東京外国語大学 A・A研	アジア・アフリカ言語文化資料の情報処理に関する基礎的研究	1991. 5. 1 ～92. 3.31

永ノ尾信悟	東京外国語大学 A・A研	南東アジアにおける「正統」の波及・ 形成と変容	1991. 5. 1 ～92. 3. 31
濱下 武志	東京外国語大学 A・A研	東アジアの社会変容と国際環境	1991. 5. 1 ～92. 3. 31
後藤 明	東京外国語大学 A・A研	イスラム圏における異文化接触のメカ ニズム, アジア遊牧民の歴史と言語	1991. 5. 1 ～92. 3. 31
関本 照夫	東京外国語大学 A・A研	イスラム圏における異文化接触のメカ ニズム, 「未開」概念の再検討	1991. 5. 1 ～92. 3. 31
田中 明彦	国際日本文化研究 センター	交渉行動様式の国際比較	1991. 7. 1 ～92. 3. 31

その他の委嘱

氏名	委嘱先	名称等	期間
後藤 明	総務庁	1991年度世界青年の船 (第4回) 主任指導官	1991. 8. 19 ～92. 3. 31

内地研究員

[1990年度]

氏名(現職)	期間	研究課題	担当教官
関尾 史郎 (新潟大学人文学部助教授)	1990. 9. 1～91. 2. 28	敦煌・トゥルファン出土漢文文書の 基礎的研究	池田教授
久保 亨 (信州大学人文学部助教授)	1990. 9. 1～91. 2. 28	中国近現代史及び社会経済史の研究	濱下教授

[1991年度]

氏名(現職)	期間	研究課題	担当教官
藤本 幸夫 (富山大学人文学部教授)	1991. 9. 1～92. 2. 29	朝鮮文献の調査とその語学的, 文学 的研究	蜂屋教授
大津 透 (山梨大学教育学部助教授)	1991. 5. 1～91. 10. 31	日唐律令制の比較研究	池田教授
荒木 猛 (長崎大学教養部教授)	1991. 5. 1～91. 10. 31	金瓶梅に投影された時代相について	田仲教授

H 学内教育参加

〔1990年度〕

1. 大学院

(氏名)	(専門課程)	(講義題目)
(1) 人文科学研究科		
田 仲 教授	中国語中国文学	西廂記研究
丸 尾 教授	中国語中国文学	近現代文学と伝統社会
岡 本 教授	中国語中国文学	清代の思想と文学
斯 波 教授	東洋史学	宋代史の諸問題
池 田 教授	東洋史学	吐魯番・敦煌文書研究
松 丸 教授	東洋史学	殷周青銅器銘文研究
濱 下 教授	東洋史学	中国近代経済史研究
宮 嶌 助教授	東洋史学	近代朝鮮経済史研究
羽 田 助教授	東洋史学	イラン・イスラム文化研究
松 丸 教授	中国哲学	殷周青銅器銘文研究
蜂 屋 教授	中国哲学	南朝の思想
岡 本 教授	中国哲学	清代の思想と文学
丘 山 助教授	中国哲学	漢訳仏典の研究
上 村 教授	印度哲学 印度文学	サンスクリット戯曲講読
丘 山 助教授	印度哲学 印度文学	漢訳仏典の研究
板 垣 教授	宗教学宗教史学 (イスラム学)	現代イスラムをめぐる諸問題
後 藤 教授	宗教学宗教史学 (イスラム学)	ムハンマド伝研究
鎌 田 助教授	宗教学宗教史学 (イスラム学)	イスラム思想文献研究
戸 田 教授	美術史学	東洋美術史演習
小 川 助教授	美術史学	中国絵画史研究 東洋美術史演習

(2) 法学政治学研究科

猪口教授	政治学	アジア・太平洋の力学
鈴木助教授	政治学	中東伝統国際秩序観研究
田中助教授	政治学	国際政治

(3) 経済学研究科

柳澤教授	応用経済学	アジア経済論 (応用経済学VII)
		応用経済学専攻指導
加納助教授	理論経済学 経済史学	アジア経済史 (経済史演習)
		経済史専攻指導

(4) 総合文化研究科

後藤教授	地域文化研究	現代イスラム論
		地域文化研究特別研究
羽田助教授	地域文化研究	アジア地域文化構造論演習II
		地域文化研究特別演習
板垣教授	地域文化研究	現代アジア論
		地域文化研究特別研究
松谷教授	文化人類学	文化過程論
		文化人類学特殊研究II
		文化人類学特別研究
		文化人類学特別演習
関本助教授	文化人類学	文化理論I
		社会人類学特殊研究I
		文化人類学特別研究
		文化人類学特別演習
加納助教授	文化人類学	社会人類学特殊研究I
原教授	国際関係論	国際経済関係論
		国際経済関係論演習
		国際経済関係論特殊研究

VIII 研究活動

原 教授 国際関係論 国際関係論特別研究

国際関係論特別演習

岡本教授 比較文学比較文化 比較文明論演習

(5) 理学系研究科

友杉教授 地理学 地誌研究

地誌学演習

(6) 農学系研究科

山田教授 農業経済学 国際農業論特論 I

国際農業論演習 I

原 教授 農業経済学 国際農業論特論 I

国際農業論演習 I

2. 学部

(氏名) (学科) (講義題目)

(1) 文学部

戸田教授 美術史学 中国絵画史

羽田 助教授 一般講義 西アジアの社会と文化

鎌田 助教授 イスラム学 イスラム史概説

猪口教授 社会学 国家と社会

(2) 法学部

鈴木 助教授 特別講義 中東の政治

(3) 経済学部

斯波教授 経済・経営共通 中国経済史

(4) 教養学部

松谷教授 教養学科 先史人類学

文化人類学演習

原 教授 教養学科 東南アジアの経済

板垣教授 教養学科 地域研究理論III

丸尾教授 教養学科 アジアの歴史と文化

加納 助教授	教養学科	東南アジア地域文化研究
関本 教授	教養学科	文化人類学
		文化人類学理論II
鈴木 助教授	教養学科	アジアの政治変動
田中 助教授	一般教養	国際体系演習
		国際関係論
猪口 教授	一般教養	政治学(文科I類)
		アジア太平洋の国際政治

(5) 理学部

友杉 教授	地理学	人類生態学
-------	-----	-------

(6) 農学部

山田 教授	農業経済学	国際農業論
原 教授	農業経済学	比較農業

(7) 全学一般教育ゼミナール

岡本 教授	第1・3学期	中国比較思想
丘山 助教授	第2・4学期	漢訳仏典の受容

[1991年度]

1. 大学院

(氏名) (専門課程) (講義題目)

(1) 人文科学研究科

田仲 教授	中国語中国文学	西廂記研究
丸尾 教授	中国語中国文学	近現代文学と伝統社会
岡本 教授	中国語中国文学	清代の思想と文学
池田 教授	東洋史学	吐魯番・敦煌文書研究
松丸 教授	東洋史学	殷周青銅器銘文研究
羽田 助教授	東洋史学	イラン・イスラム文化研究
松丸 教授	中国哲学	殷周青銅器銘文研究